

《人づくり分野》

生涯学習部

2021年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	生涯学習総務課	歳出目名	社会教育総務費
				事業類型	c:その他型

1.組織概要

組織の使命	総務担当課として適切な部内運営に寄与し、関係部署が事業を円滑に推進できるようにします。町田市固有の文化財・歴史資料の保護・管理等に努め、それらに触れる機会の提供・情報の発信により、市民が郷土への理解と愛着を深められるようにします。	他自治体等 の 取 組 み 等	◆2021年度東京都内において地域歴史資料をデジタルアーカイブで公開しているのは、港区、豊島区、練馬区、江戸川区、台東区、昭島市、小平市、多摩市、西東京市、瑞穂町の10自治体です。この中で町田デジタルミュージアムの掲載量は最大になる見込みです。
所管事務	<ul style="list-style-type: none"> ◆生涯学習部の総務担当課の事務等に関する事 ◆生涯学習及び社会教育の基本的な方針に関する事 ◆生涯学習審議会、社会教育委員及び文化財保護審議会に関する事 ◆文化財の保護、調査及び収集等に関する事 ◆考古資料室に関する事 		

2.2020年度末の総括と2021年度状況

①「成果及び財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆町田市生涯学習センターが、より多くの市民に親しまれ必要とされる施設として継続していくため、目指すべき姿や効率的・効果的な管理運営手法について検討する必要があります。
- ◆高ヶ坂石器時代遺跡整備事業では、補助金の交付額が要望額を下回ったときに事業への影響を最小限に抑えられるよう対策を講じる必要があります。
- ◆町田デジタルミュージアムを媒体として新たな考古・歴史・民俗資料の活用方法を検討し、掲載資料を見学できる環境を整える必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆2021年度に町田市生涯学習審議会から受ける予定の「今後の町田市生涯学習センターのあり方について」の答申を踏まえ、見直し検討を行います。	◆町田デジタルミュージアム掲載資料を考古資料室と自由民権資料館で見学できる環境を整える他、学校教育での利用促進を検討・実施します。	◆高ヶ坂石器時代遺跡整備事業については、スケジュールの再調整など整備計画の見直しを行います。	◆町田デジタルミュージアムを魅力あるコンテンツとして多くの方に利用していただくため、掲載内容の改善・更新を行います。
○	◆町田市生涯学習審議会において、「今後の町田市生涯学習センターのあり方について」の答申を踏まえた見直し検討を行いました。◆考古資料室の展示を、町田デジタルミュージアムに掲載を予定している資料を中心とした内容にリニューアルしました。◆町田デジタルミュージアムの学校教育での利用促進を図るため、「出張歴史授業」のプログラムを作成しました。		

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
生涯学習審議会の開催回数	回	目標	-	-	-	-	-	町田市生涯学習審議会の年間開催回数
		実績	6	6	5			
高ヶ坂石器時代遺跡整備事業進捗状況	-	目標	八幡平遺跡整備	八幡平遺跡整備	八幡平遺跡公開	見学会実施	整備完了	国指定史跡高ヶ坂石器時代遺跡(牢場・稲荷山・八幡平)整備事業の進捗状況
		実績	八幡平遺跡整備	八幡平遺跡整備	八幡平遺跡公開		(2027年度)	
考古資料室の見学者数	人	目標	440	300	330	360	-	考古資料室年間見学者数
		実績	255	318	323			

②成果指標およびその他成果の説明

◆2021年1月に町田市生涯学習審議会へ「今後の町田市生涯学習センターのあり方について」を諮問し、2021年11月に答申を受けました。◆高ヶ坂石器時代遺跡(八幡平遺跡)を2021年4月から一般公開し、11月にはまちだOごと大作戦「縄文フェスティバル」と連携して見学会を行い、参加者数は90人でした。◆考古資料室見学者数は目標値を達成できませんでしたが、アウトリーチ展示と合わせた見学者数は16,034人となり、4,461人(39%)増加しました。◆インターネット上で考古・歴史・民俗資料約2,000点を紹介する町田デジタルミュージアムについて、画像、地図、年表等の作成、閲覧画面レイアウトの編集等を行い構築を完了しました。また、2022年4月からの公開に向けて記者発表を行うなど広報活動を実施しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2019年度				2020年度				2021年度			
	2019年度	2020年度	2021年度	差額	2019年度	2020年度	2021年度	差額	2019年度	2020年度	2021年度	差額
	A	B	C	B-A	A	B	C	B-A	A	B	C	B-A
行政費用	109,352	104,003	97,328	△ 6,675	19,280	30,323	24,884	△ 5,439	16,779	16,847	538	△ 16,309
特別費用	0	0	2,525	2,525	0	0	0	0	0	0	0	0
特別収支差額	0	0	△ 2,525	△ 2,525	0	0	0	0	0	0	0	0
当期収支差額	109,352	104,003	94,803	△ 6,675	19,280	30,323	24,884	△ 5,439	16,779	16,847	538	△ 16,309

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	人件費 94,387千円 文化財保護審議会委員報酬 1,152千円 生涯学習審議会委員報酬 925千円 社会教育委員報酬 864千円	「町田デジタルミュージアム」構築作業等業務委託料 11,251千円 埋蔵文化財調査委託料 4,037千円 「旧永井家住宅・旧荻野家住宅」保守管理業務委託料 1,356千円 など
主な増減理由	職員構成の変動等により人件費が6,675千円減少(うち、時間外が305千円減少)。	高ヶ坂石器時代遺跡の設計業務が完了したことにより設計業務委託料が2,750千円減少。町田デジタルミュージアムの撮影対象点数が減少したことにより構築作業等業務委託料が2,028千円減少。
勘定科目	維持補修費	その他(行政収入)
決算額の主な内訳	考古資料室室内裝修繕 299千円 旧荻野家住宅揚戸修繕 158千円 高ヶ坂石器時代遺跡(八幡平遺跡)フェンス設置工事 44千円 高ヶ坂石器時代遺跡(八幡平遺跡)手摺修繕 26千円 など	図書館振興財団助成金 2,992千円 一般財団法人地域創造助成金 80千円 ふるさと納税 30千円
主な増減理由	高ヶ坂石器時代遺跡整備工事(五期)が完了したことにより工事請負費が15,681千円減少。文化財の修繕箇所が減少したことにより修繕料が812千円減少。	町田デジタルミュージアム構築業務委託に対する図書館振興財団助成金が減少したことにより7,142千円減少。地域伝統芸能等保存事業へ助成を受けたことにより助成金が80千円増加。

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2020年度末 A	2021年度末 B	差額 B-A	勘定科目		2020年度末 A	2021年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債		11,820	14,217	2,397	
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	0	
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	5,057	5,073	16	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	841,579	834,712	△ 6,867		賞与引当金	6,763	9,144	2,381
		土地	708,422	708,422	0		その他の流動負債	0	0	0
		建物(取得価額)	333,632	333,632	0	固定負債		139,253	134,018	△ 5,235
		建物減価償却累計額	△ 200,475	△ 207,342	△ 6,867		地方債	47,081	42,009	△ 5,072
		工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金	92,172	92,009	△ 163
	工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0	0	
	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計		151,073	148,235	△ 2,838	
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	純資産		691,892	689,201	△ 2,691
		土地	0	0	0					
		工作物(取得価額)	0	0	0					
工作物減価償却累計額		0	0	0						
無形固定資産		0	0	0	純資産の部合計		691,892	689,201	△ 2,691	
建設仮勘定	0	0	0	負債及び純資産の部合計		842,965	837,436	△ 5,529		
その他の固定資産	1,386	2,724	1,338							
資産の部合計	842,965	837,436	△ 5,529							

④貸借対照表の特徴的事項

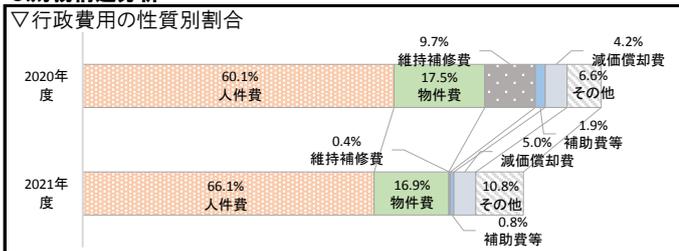
勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	田端遺跡 220,285千円 高ヶ坂石器時代遺跡(八幡平遺跡) 192,014千円 など	村野常右衛門生家 141,778千円 高ヶ坂石器時代遺跡(牢場遺跡)覆屋 27,293千円 など	須恵器横瓶 1,800千円 土製耳飾リブリカ 924千円
主な増減理由	増減なし	減価償却により、6,867千円減少。	市立博物館から須恵器横瓶を移管されたことにより、1,800千円増加。土製耳飾リブリカの原価償却により、462千円減少。

⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	6,235	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	140,328	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	5,057
行政サービス活動収支差額(a)	△ 134,093	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	△ 5,057
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 139,150
				一般財源充当調整額	139,150

5.財務構造分析

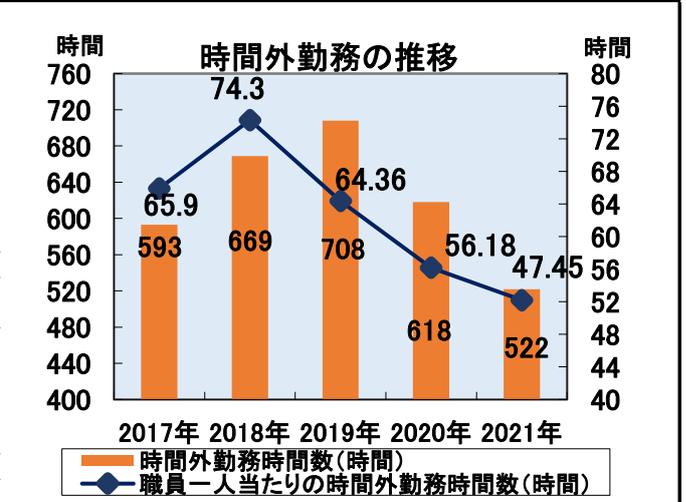


▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度		2021 合計	2020 合計
				(業務)	(補助)		
生涯学習審議会事務	1.1					1.1	1.3
生涯学習総務課管理事務	5.2			0.3		5.5	4.9
文化財保護事務	4.3			0.4	0.1	4.8	5.5
考古資料室管理事務	0.5					0.5	0.4
						0.0	0.0
2021年度 歳出目 合計	11.1	0.0	0.0	0.7	0.1	11.9	12.1
2020年度 歳出目 合計	11.0	0.0	1.0	0.1	0.0	12.1	

6.個別分析



7.総括

①財務情報と非財務情報(取り組み・成果・人員等)の分析

◆2021年度は高ヶ坂石器時代遺跡整備事業を一時中断したため、2020年度と比較して行政費用の物件費が4,882千円、維持補修費が15,681千円減少しました。また、国及び都からの補助を受けて実施している事業のため、行政収入の国庫支出金が6,893千円、都支出金も3,446千円減少しました。
◆考古資料室とアウトリーチ展示の見学者数は合わせて16,034人となり、2020年度と比較して4,461人増加したため、見学者1人あたりのコストは100円(△12%)減少しました。

②新型コロナウイルス感染症の影響、対策および財務への影響の分析

◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、2021年度は文化財保護審議会を4回開催のうち2回を書面開催としたことにより、会議録作成業務委託料が50千円減少しました。◆新型コロナウイルス感染症の影響により、無形民俗文化財の保護育成団体が活動を自粛したため、町田市無形民俗文化財保護育成補助金が73千円減少しました。◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、企画したアウトリーチ展示のうち1件を中止しましたが、展示資料の入れ替え、展示テーマを工夫したことにより見学者数は4,461人(39%)増加し、見学者1人あたりのコストが100円(△12%)減少しました。

③2021年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆高ヶ坂石器時代遺跡は3地点すべてが見学可能となりましたが、八幡平遺跡と牢場遺跡の一部は整備が完了していません。国や都からの補助金の交付額や市の財政状況の影響を大きく受ける事業であるため、整備のスケジュールや内容などを見直し、整備を完了させる必要があります。また、遺跡の認知度を高めるため公開・活用を促進する必要があります。◆2022年度から町田デジタルミュージアムの全面公開が開始しますが、多くの方にご利用いただくために効果的な情報発信が必要です。また、町田デジタルミュージアムを活用し、町田市の歴史に触れられる機会を増やす必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆町田デジタルミュージアムの普及促進を図ります。◆町田デジタルミュージアムの効果的な活用方法を検討・実施します。◆中学校給食センターの建設に伴い、旧忠生第六小学校に保管している資料を整理した上で、民俗資料を三輪の森ビジターセンターへ、考古資料をゆくのき学園に移送します。	◆高ヶ坂石器時代遺跡整備事業については、スケジュールの再調整など整備計画の見直しを行います。◆町田デジタルミュージアムを魅力あるコンテンツとして多くの方に利用していただくため、掲載内容の改善・更新を行います。

2021年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	生涯学習総務課
----	-------	------	---------

歳出目名	社会教育総務費	特定事業名	文化財保護事業	事業類型	4:その他型
------	---------	-------	---------	------	--------

1.事業概要

事業目的 町田市固有の文化財・歴史資料の保護・維持・管理に努め、市民がそれらに触れる機会・場所の提供及び情報を発信することにより、市民が郷土への理解と愛着を深められるようにします。

基本情報	根拠法令等	文化財保護法、東京都文化財保護条例、町田市文化財保護条例及び同施行規則、町田市文化財保護事業費補助金交付要綱				
		2019年度	2020年度	2021年度	国指定及び登録文化財件数	21件
	高ヶ坂石器時代遺跡整備事業進捗状況	八幡平遺跡整備	八幡平遺跡整備	八幡平遺跡公開	東京都指定文化財件数	16件
	町田デジタルミュージアム進捗状況	歴史資料構築・公開	考古資料構築・公開	構築完了	町田市指定及び登録文化財件数	57件
				埋蔵文化財包蔵地数	913ヶ所	

2. 2020年度末の総括と2021年度の状況

①「成果及び財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆高ヶ坂石器時代遺跡整備事業は、国や都からの補助金の交付額や市の財政状況の影響を大きく受ける事業です。これらの影響を最小限に抑えられるよう対策を講じる必要があります。また、積極的な情報発信により遺跡の認知度を高め、公開・活用の促進を図る必要があります。
◆2022年度からの全面公開に向けて、町田デジタルミュージアムを媒体として新たな考古・歴史・民俗資料の活用方法を検討する他、掲載資料を見学できる環境を整える必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

	短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
取組状況	◆高ヶ坂石器時代遺跡(八幡平遺跡)の一般公開、見学会を行いました。 ◆考古資料室の展示を、町田デジタルミュージアムに掲載を予定している資料を中心とした内容にリニューアルしました。 ◆町田デジタルミュージアムの学校教育での利用促進を図るため、「出張歴史授業」のプログラムを作成しました。	◆高ヶ坂石器時代遺跡整備事業については、スケジュールの再調整など整備計画の見直しを行います。 ◆町田デジタルミュージアムを魅力あるコンテンツとして多くの方に利用していただくため、掲載内容の改善・更新を行います。

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
高ヶ坂石器時代遺跡整備事業進捗状況	-	目標	八幡平遺跡整備	八幡平遺跡整備	八幡平遺跡公開	見学会実施	整備完了	国指定史跡高ヶ坂石器時代遺跡(牢場・稲荷山・八幡平)整備事業の進捗状況
		実績	八幡平遺跡整備	八幡平遺跡整備	八幡平遺跡公開		(2022年度)	
町田デジタルミュージアム構築進捗状況	-	目標	歴史資料公開	考古資料公開	構築完了	全面公開	全面公開	町田デジタルミュージアム構築の進捗状況
		実績	歴史資料公開	考古資料公開	構築完了		(2022年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆高ヶ坂石器時代遺跡(八幡平遺跡)を2021年4月から一般公開し、11月にはまちだ〇ごと大作戦「縄文フェスティバル」と連携して見学会を行い、参加者数は90人でした。◆インターネット上で考古・歴史・民俗資料約2,000点を紹介する町田デジタルミュージアムについて、画像、地図、年表等の作成、閲覧画面レイアウトの編集等を行い構築を完了しました。また、2022年4月からの公開に向けて記者発表を行うなど広報活動を実施しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2019年度	2020年度	2021年度	差額	勘定科目		2019年度	2020年度	2021年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	46,202	45,088	38,337	△ 6,751	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	17,033	28,096	22,500	△ 5,596		国庫支出金	15,823	8,553	1,700	△ 6,853
	うち委託料	16,312	27,919	22,404	△ 5,515		都支出金	8,360	4,777	949	△ 3,828
	維持補修費	16,598	16,688	239	△ 16,449		分当金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	463	467	469	2
	補助費等	4,249	3,232	1,152	△ 2,080		その他	1,503	10,194	3,102	△ 7,092
	減価償却費	7,618	4,362	4,362	0		行政収入 小計(a)	26,149	23,991	6,220	△ 17,771
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 76,440	△ 79,185	△ 63,939	15,246
	賞与・退職手当引当金繰入額	10,889	5,710	3,569	△ 2,141		金融収支差額(d)	△ 209	△ 194	△ 181	13
	行政費用 小計(b)	102,589	103,176	70,159	△ 33,017		通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 76,649	△ 79,379	△ 64,120	15,259
	特別費用(g)	0	0	1,052	1,052		特別収入(f)	0	0	176	176
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	△ 876	△ 876		当期収支差額(e)+(h)	△ 76,649	△ 79,379	△ 64,996	14,383

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	維持補修費
決算額の主な内訳	「町田デジタルミュージアム」構築作業等業務委託料 11,251千円 埋蔵文化財調査委託料 4,037千円 「旧永井家・旧荻野家住宅」保守管理業務委託料 1,356千円 など	旧荻野家住宅揚戸修繕 158千円 高ヶ坂石器時代遺跡(八幡平遺跡)フェンス設置工事 44千円 高ヶ坂石器時代遺跡(八幡平遺跡)手摺修繕 26千円 など
主な増減理由	高ヶ坂石器時代遺跡の設計業務が完了したことにより設計業務委託料が2,750千円減少。町田デジタルミュージアムの撮影対象点数が減少したことにより構築作業等業務委託料が2,028千円減少。	高ヶ坂石器時代遺跡整備工事(五期)が完了したことにより工事請負費が15,681千円減少。 文化財の修繕箇所が減少したことにより修繕料が812千円減少。
勘定科目	国庫支出金	その他(行政収入)
決算額の主な内訳	埋蔵文化財調査事業費補助金 1,700千円	図書館振興財団助成金 2,992千円 一般財団法人地域創造助成金 80千円 ふるさと納税 30千円
主な増減理由	高ヶ坂石器時代遺跡整備工事を実施しなかったことにより補助金が6,893千円減少。埋蔵文化財調査委託料が増加したことにより補助金が40千円増加。	町田デジタルミュージアム構築業務委託に関する図書館振興財団助成金が7,142千円減少。地域伝統芸能等保存事業へ助成を受けたことにより助成金が80千円増加。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
		2021				
		2020				
		2019				
		2021				
		2020				
		2019				

④貸借対照表

(単位:千円)

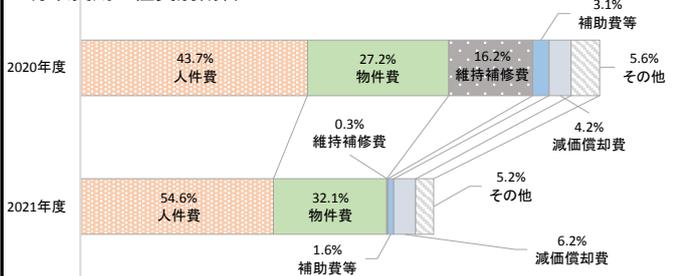
勘定科目		2020年度末 A	2021年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2020年度末 A	2021年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	7,878	8,642	764
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	5,073	5,073
固定資産	有形固定資産	735,375	731,013	△ 4,362		賞与引当金	2,821	3,569
	土地	653,734	653,734	0		その他の流動負債	0	0
	建物(取得価額)	202,490	202,490	0	固定負債	85,563	77,632	△ 7,931
	建物減価償却累計額	△ 120,849	△ 125,211	△ 4,362		地方債	47,081	42,009
	工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金	38,482	35,623
	工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0
	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計	93,441	86,274	△ 7,167
	インフラ資産	0	0	0	純資産	641,934	644,739	2,805
	建設仮勘定	0	0	0				
	その他の固定資産	0	0	0	純資産の部合計	641,934	644,739	2,805
資産の部合計		735,375	731,013	△ 4,362	負債及び純資産の部合計	735,375	731,013	△ 4,362

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	
決算額の主な内訳	田端遺跡 220,285千円 高ヶ坂石器時代遺跡(八幡平遺跡) 192,014千円 など	村野常右衛門生家 141,778千円 高ヶ坂石器時代遺跡(牟場遺跡) 覆屋 27,293千円 など	特になし
主な増減理由	増減なし	減価償却により、4,362千円減少。	

5.財務構造分析

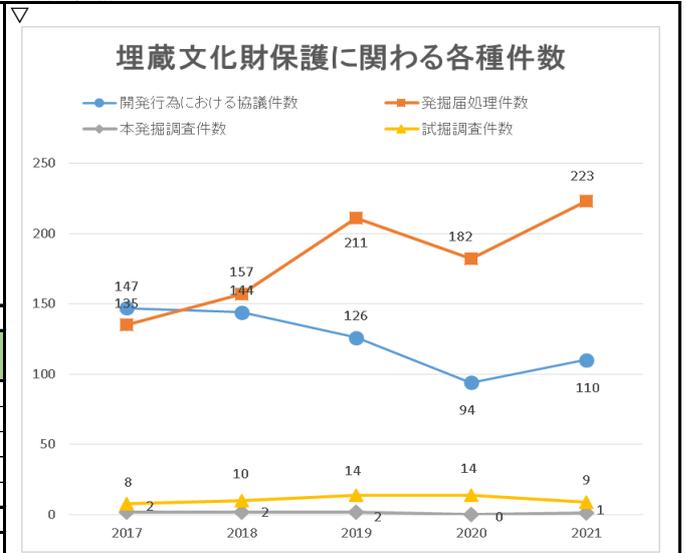
▽行政費用の性質別割合



▽事業に関わる人員

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2021		2020	
						合計	合計	合計	合計
文化財保護審議会事務局事務	0.3					0.3	0.3	0.3	0.3
文化財保護事務	1.6					1.6	1.6	1.3	1.3
文化財整備保存事業	0.2					0.2	0.2	0.9	0.9
埋蔵文化財保護事業	1.3			0.1	0.1	1.4	1.4	1.5	1.5
文化財普及事業	0.9			0.4	0.4	1.3	1.3	1.5	1.5
2021年度 特定事業 合計	4.3	0.0	0.0	0.4	0.1	4.8	4.8	5.5	5.5
2020年度 特定事業 合計	4.6	0.0	0.9	0.0	0.0	5.5	5.5		

6.個別分析



7.総括

①財務情報と非財務情報(取り組み・成果・人員等)の分析

◆2021年度は高ヶ坂石器時代遺跡整備事業を一時中断したため、2020年度と比較して行政費用の物件費が4,882千円、維持補修費が15,681千円減少しました。また、国及び都からの補助を受けて実施している事業のため、行政収入の国庫支出金が6,893千円、都支出金も3,446千円減少しました。
◆埋蔵文化財保護事業において、試掘調査の件数は2020年度と比較して5件(△36%)減少しましたが、発掘届処理件数は41件(23%)、開発行為における協議件数は16件(17%)増加しました。

②新型コロナウイルス感染症の影響、対策および財務への影響の分析

◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、2021年度は文化財保護審議会を4回開催のうち2回を書面開催としたことにより、2020年度と比較して会議録作成業務委託料が50千円減少しました。
◆新型コロナウイルス感染症の影響により、無形民俗文化財の保護育成団体が活動を自粛したため、2020年度と比較して町田市無形民俗文化財保護育成補助金が73千円減少しました。

③2021年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆高ヶ坂石器時代遺跡は3地点すべてが見学可能となりましたが、八幡平遺跡と牟場遺跡の一部は整備が完了していません。国や都からの補助金の交付額や市の財政状況の影響を大きく受ける事業であるため、整備のスケジュールや内容などを見直し、整備を完了させる必要があります。また、遺跡の認知度を高めるため公開・活用を促進する必要があります。
◆2022年度から町田デジタルミュージアムの全面公開が開始しますが、多くの方にご利用いただくために効果的な情報発信が必要です。また、町田デジタルミュージアムを活用し、町田市の歴史に触れられる機会を増やす必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆町田デジタルミュージアムの普及促進を図ります。◆町田デジタルミュージアムの効果的な活用方法を検討・実施します。◆高ヶ坂石器時代遺跡の見学会を実施します。◆中学校給食センターの建設に伴い、旧忠生第六小学校に保管している資料を整理した上で、民俗資料を三輪の森ビジターセンターへ、考古資料をゆくのき学園に移送します。	◆高ヶ坂石器時代遺跡整備事業については、スケジュールの再調整など整備計画の見直しを行います。 ◆町田デジタルミュージアムを魅力あるコンテンツとして多くの方に利用していただくため、掲載内容の改善・更新を行います。

2021年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	生涯学習総務課
----	-------	------	---------

歳出目名	社会教育総務費	特定事業名	考古資料室事業	事業類型	2:施設運営型
------	---------	-------	---------	------	---------

1.事業概要

事業目的 町田市固有の考古資料の収集、整理、調査、保管に努め、市民がそれらに触れる機会・場所の提供及び情報を発信することにより、市民が郷土への理解と愛着を深められるようにします。

基本情報	根拠法令等 町田市考古資料室の公開に関する要領					
		2019年度	2020年度	2021年度	施設の名称	町田市考古資料室
	考古資料室見学者数	255	318	323	建設年月日	-
	アウトリーチ展示開催件数(見学者数合計)	3(6,907)	2(11,255)	2(15,711)		
				有形固定資産減価償却率	2019年度 58.1% 2020年度 60.4% 2021年度 61.7%	

2. 2020年度末の総括と2021年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆展示の実施場所、内容の工夫によって各利用者数は増加しましたが、今後も増加傾向を維持するために魅力的な展示の企画、実施場所の開拓をする必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆2022年度に公開予定である町田デジタルミュージアムとの相乗効果を図るため、町田デジタルミュージアムに掲載される資料を考古資料室で見学できるよう展示構成を工夫します。 ◆より多くの方に資料を見て頂くため、アウトリーチ展示の実施場所の新規開拓を行います。		◆見学者が施設を安全に利用でき、収蔵資料を適切に保管できるよう設備を定期的に点検し、計画的な修繕・管理を行います。	
取組状況	○ ◆考古資料室の展示を、町田デジタルミュージアムに掲載を予定している資料を中心とした内容にリニューアルしました。 ◆高ヶ坂石器時代遺跡(八幡平遺跡)の見学会に合わせて、土器に触って体験できるイベントを新たに実施しました。		

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
考古資料室の見学者数	人	目標	440	300	330	360	-	考古資料室年間見学者数
		実績	255	318	323			
アウトリーチ展示開催件数(見学者数合計)	件(人)	目標	3(8,000)	3(4,500)	11,000	16,000	-	収蔵資料を活用し、考古資料室以外で実施した展示会の件数及び見学者数
		実績	3(6,907)	2(11,255)	2(15,711)			

②成果指標およびその他成果の説明

◆考古資料室見学者数は目標値を達成できませんでしたが、アウトリーチ展示と合わせた見学者数は16,034人となり、4,461人(39%)増加しました。
◆アウトリーチ展示は町田ツーリストギャラリーと市役所イベントスタジオでの2件を実施し、展示資料の入替え、展示テーマを工夫したことにより見学者数が15,711人となり、2020年度と比較して4,456人(40%)増加しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2019年度	2020年度 A	2021年度 B	差額 B-A	勘定科目	2019年度	2020年度 A	2021年度 B	差額 B-A
人件費	2,449	2,916	3,829	913	地方税	0	0	0	0
物件費	2,160	2,184	2,329	145	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	1,578	1,612	1,744	132	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	182	160	299	139	分担金及負担金	0	0	0	0
行政費用	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	0	0	0	0	その他	0	0	0	0
減価償却費	3,157	2,967	2,967	0	行政収入 小計(a)	0	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 8,157	△ 9,301	△ 11,295	△ 1,994
賞与・退職手当引当金繰入額	209	1,074	1,871	797	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	8,157	9,301	11,295	1,994	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 8,157	△ 9,301	△ 11,295	△ 1,994
特別費用 (g)	0	0	71	71	特別収入 (f)	0	0	0	0
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	0	△ 71	△ 71	当期収支差額 (e)+(h)	△ 8,157	△ 9,301	△ 11,366	△ 2,065

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	人件費 3,829千円	除草及び低木剪定業務委託料 653千円 施設管理業務委託料 602千円 機械警備委託料 234千円 など
主な増減理由	職員構成の変動等により913千円増加。	委託先の人件費単価の上昇により除草及び低木剪定業務委託料が32千円、施設管理業務委託料が53千円増加。3年ごとの法定点検実施年度だったことにより空調機器点検業務委託料が44千円増加。
勘定科目	維持補修費	
決算額の主な内訳	考古資料室室内装修繕 299千円	特になし
主な増減理由	考古資料室の修繕規模が大きかったことにより139千円増加。	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
見学者1人あたりのコスト	人	2021	16,034	704	△ 100	見学者数が増加したため、見学者1人あたりのコストは、2020年度と比較して100円(△12%)減少し、704円となりました。
		2020	11,573	804	△ 335	
		2019	7,162	1,139		
		2021				
		2020				
		2019				

④貸借対照表

(単位:千円)

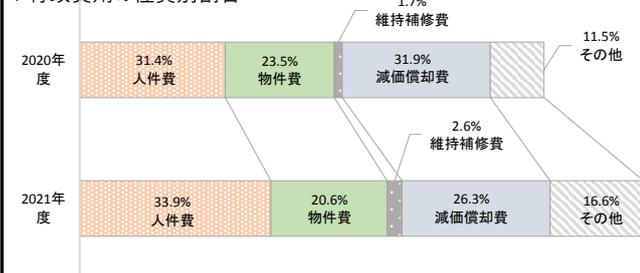
勘定科目		2020年度末 A	2021年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2020年度末 A	2021年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	191	374	183
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	0	0
固定資産	有形固定資産	106,204	103,699	△ 2,505		賞与引当金	191	374
	土地	54,688	54,688	0		その他の流動負債	0	0
	建物(取得価額)	131,142	131,142	0	固定負債	2,604	3,814	
	建物減価償却累計額	△ 79,626	△ 82,131	△ 2,505		地方債	0	0
	工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金	2,604	3,814
	工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0
	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計	2,795	4,188	
	インフラ資産	0	0	0	純資産	104,795	102,235	
	有形固定資産	0	0	0				
	土地	0	0	0				
工作物(取得価額)	0	0	0					
工作物減価償却累計額	0	0	0					
無形固定資産	0	0	0					
建設仮勘定	0	0	0	純資産の部合計	104,795	102,235		
その他の固定資産	1,386	2,724	1,338	負債及び純資産の部合計	107,590	106,423		
資産の部合計	107,590	106,423	△ 1,167					

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	考古資料室 54,688千円	考古資料室 131,142千円	須恵器横瓶 1,800千円 土製耳飾りレプリカ 924千円
主な増減理由	増減なし	減価償却により、2,505千円減少。	市立博物館から須恵器横瓶を移管されたことにより、1,800千円増加。土製耳飾りレプリカの原価償却により、462千円減少。

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



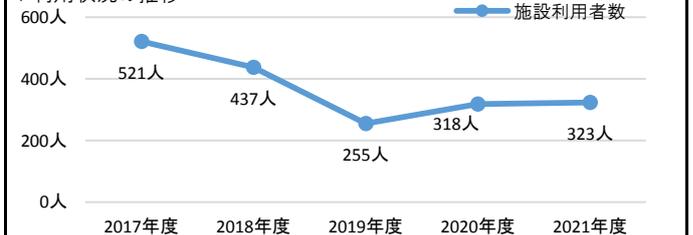
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2021	2020
						合計	合計
考古資料室管理事務	0.5					0.5	0.4
						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
2021年度 特定事業 合計	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.4
2020年度 特定事業 合計	0.3	0.0	0.1	0.0	0.0	0.4	

6.個別分析

▽利用状況の推移



▽アウトリーチ展示見学者数の推移



7.総括

①財務情報と非財務情報(取り組み・成果・人員等)の分析

- ◆考古資料室とアウトリーチ展示の見学者数は合わせて16,034人となり、2020年度と比較して4,461人増加したため、見学者1人あたりのコストは100円(△12%)減少しました。
- ◆2021年10月から12月に江戸東京博物館で開催された特別展「縄文2021-東京に生きた縄文人-」へ約140点の資料を貸し出し、39,133人(1日平均783人)の方にご覧いただきました。

②新型コロナウイルス感染症の影響、対策および財務への影響の分析

- ◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、企画したアウトリーチ展示のうち1件が中止となりましたが、展示資料の入れ替え、展示テーマを工夫したことにより、2020年度と比較して見学者数は4,461人(39%)増加し、2020年度と比較して見学者1人あたりのコストが100円(△12%)減少しました。

③2021年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆引き続きアウトリーチの展示、イベントを実施する場所の新規開拓を進める必要があります。
- ◆町田デジタルミュージアムと連携するなど考古資料室の展示構成をより魅力的なものにする必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
<ul style="list-style-type: none"> ◆新たなアウトリーチ事業として、小中学校への出張歴史授業を実施します。 ◆考古資料室の展示環境を整備し、町田デジタルミュージアムと連動した展示を実施します。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆見学者の利便性と資料の収蔵環境を適切に維持するため、計画的な修繕計画を検討します。

2021年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	生涯学習総務課	歳出目名	自由民権資料館費
----	-------	----	---------	------	----------

事業類型 e:事業型(施設運営)

1.組織概要

組織の使命	自由民権運動及び町田の歴史に関する資料を収集し、保管し、及び展示して、市民の利用に供し、自由民権運動と町田の歴史についての市民の理解を深めます。	取 り 組 み 体 制 の 取 組 み	◆「自由民権運動」を冠する公立博物館は、全国で高知市立自由民権記念館、福島県三春町自由民権記念館及び当館の3館のみです。両館とも、自由民権運動、近代史を専門とする学芸員は在籍していません。
所管事務	◆自由民権運動及び町田の歴史に関する資料の収集及び保管、展示、閲覧、調査、研究及び、図書の刊行。普及事業の講座、各種イベントの開催に関すること。		

基本情報	根拠法令等				施設の名称	町田市立自由民権資料館		
	開館日数	2019年度	2020年度	2021年度	建設年月日	1986年3月31日		
	特別展・企画展開催回数	213	250	268		2019年度	2020年度	2021年度
	特別展・企画展開催回数	2	2	4				
	講座実施回数	98	22	63	有形固定資産減価償却率	38.4%	40.4%	42.4%

2. 2020年度末の総括と2021年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆「町田市立自由民権資料館のあり方見直し方針」に示した「めざす姿」を実現するため、事業の見直し及び効率的・効果的な管理運営体制の構築に向けた取組を行う必要があります。
- ◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止に努めながら事業を行うため、実施方法などについて検討する必要があります。
- ◆町田市立博物館から移管された民俗資料と、考古・歴史資料を一体的に活用していく取組を行う必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

取組状況	短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
	◆「町田市立自由民権資料館のあり方見直し方針」に基づき、事業の見直し及び効率的・効果的な管理運営体制の構築に向けた取組を検討します。◆コロナ禍に対応した実施方法で事業を行います。◆考古・歴史・民俗資料を一体的に活用するため事業の整理及び組織体制の検討を行います。	◆町田市の歴史を後世に伝えるため、新たな『町田市史』編さんに向けて、様々な課題を整理し準備を行います。◆町田市の通史を紹介する資料館として、町田デジタルミュージアムの掲載資料と現物の資料を結びつけた展示を実施します。
○	◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を講じながら、自由民権資料館以外の施設や屋外で、歴史を学ぶ講座を実施しました。 ◆文化財係と自由民権資料館を統合し、2022年4月から歴史資源担当とする組織改正のための準備を行いました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
自由民権資料館 利用者数	人	目標	5,900	7,000	7,000	7,000	7,200	年間利用者数(出張講座等の施設外利用者含む)
		実績	8,084	4,106	5,809			
史料整理点数	点	目標	20,000	15,000	15,000	17,000	-	年間資料整理点数
		実績	9,108	15,783	11,728			

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を行った上で、特別展2回、企画展2回、計4回の展覧会及び市民センターや屋外を含む歴史講座を63回実施しました。2020年度と比較して利用者数は5,809人となり、1,703人(41%)増加しました。
- ◆史料整理点数は11,728点となり、目標値を下回りました。◆「町田市の歴史資料の収集・保存・活用に関する方針」を策定しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

勘定科目		2019年度	2020年度 A	2021年度 B	差額 B-A	勘定科目	2019年度	2020年度 A	2021年度 B	差額 B-A
行政費用	人件費	39,884	40,285	40,852	567	地方税	0	0	0	0
	うち時間外勤務手当	2,004	2,027	871	△ 1,156	保険料	0	0	0	0
	物件費	9,383	9,496	10,232	736	国庫支出金	0	0	0	0
	うち委託料	4,923	5,224	5,801	577	都支支出金	0	0	0	0
	維持補修費	345	473	780	307	分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	1,003	974	948	△ 26	その他	525	318	476	158
	減価償却費	7,391	9,809	9,970	161	行政収入 小計(a)	525	318	476	158
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 61,622	△ 64,948	△ 67,585	△ 2,637
	賞与・退職手当引当金繰入額	4,141	4,229	5,279	1,050	金融収支差額 (d)	0	△ 71	△ 84	△ 13
	行政費用 小計 (b)	62,147	65,266	68,061	2,795	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 61,622	△ 65,019	△ 67,669	△ 2,650
	特別費用 (g)	0	0	992	992	特別収入 (f)	0	0	0	0
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	0	△ 992	△ 992	当期収支差額 (e)+(h)	△ 61,622	△ 65,019	△ 68,661	△ 3,642	

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員給料等 24,906千円 会計年度任用職員報酬等 15,946千円	自由民権資料館電気料金(年間) 2,392千円 自由民権資料館総合管理業務委託料 2,236千円 民権の森史跡管理業務委託料 2,038千円 など
主な増減理由	職員構成の変動等により人件費が567千円増加。	移送を伴う民俗資料展示の実施により設置・撤去委託料が394千円増加。契約更新により施設等管理委託料が131千円増加。史料保存に使用する中性紙封筒の価格改定により印刷製本費が87千円増加。
勘定科目	維持補修費	補助費等
決算額の主な内訳	シャッター修繕 565千円 自動ドア修繕 108千円 擁壁補修修繕 57千円 など	史料調査員謝礼 546千円 原稿執筆料 208千円 講師謝礼 160千円 など
主な増減理由	緊急を要する施設修繕が複数発生したため施設修繕料が307千円増加。	新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を講じて講座を再開したため講師謝礼が160千円増加。史料調査員への依頼件数減少により史料調査員謝礼が189千円減少。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
利用者1人あたりコスト	人	2021	5,809	11,716	△ 4,179	新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を講じて展覧会、講座を再開したため、2020年度と比較して利用者数が1,703人(41%)増加し、施設利用者1人当たりのコストは、4,179円(△26%)減少しました。
		2020	4,106	15,895	8,207	
		2019	8,084	7,688		
		2021				
		2020				
		2019				

④貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2020年度末 A	2021年度末 B	差額 B-A	勘定科目		2020年度末 A	2021年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債		2,151	3,173	1,022
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	0	0	0
固定資産	有形固定資産	629,848	620,039	△ 9,809	賞与引当金	2,151	3,173	1,022	
	土地	334,577	334,577	0	その他の流動負債	0	0	0	
	建物(取得価額)	490,459	490,459	0	固定負債	109,204	109,397	193	
	建物減価償却累計額	△ 195,188	△ 204,997	△ 9,809	地方債	84,000	84,000	0	
	工作物(取得価額)	0	0	0	退職手当引当金	25,204	25,397	193	
	工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0	
	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計	111,355	112,570	1,215	
	インフラ資産	0	0	0	純資産	518,493	508,111	△ 10,382	
	有形固定資産	0	0	0					
	土地	0	0	0					
工作物(取得価額)	0	0	0						
工作物減価償却累計額	0	0	0						
無形固定資産	0	0	0						
建設仮勘定	0	0	0						
その他の固定資産	0	642	642	純資産の部合計	518,493	508,111	△ 10,382		
資産の部合計	629,848	620,681	△ 9,167	負債及び純資産の部合計	629,848	620,681	△ 9,167		

⑤貸借対照表の特徴的事項

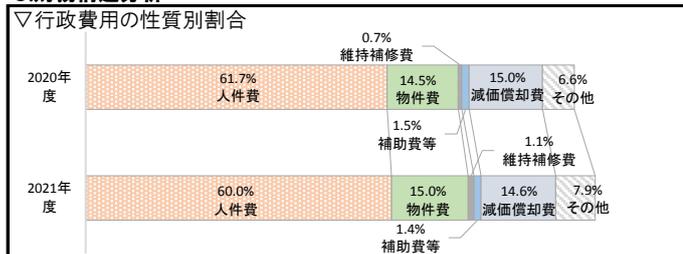
勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	自由民権資料館 334,577千円	自由民権資料館 490,459千円	平型覗きガラスケース 642千円
主な増減理由	増減なし	減価償却により、9,809千円減少。	市立博物館から平型覗きガラスケースを移管されたことにより、642千円増加。

⑥キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	476	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	57,952	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	0
行政サービス活動収支差額(a)	△ 57,476	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	0
			収支差額 合計 (a)+(b)+(c)		△ 57,476
			一般財源充当調整額		57,476

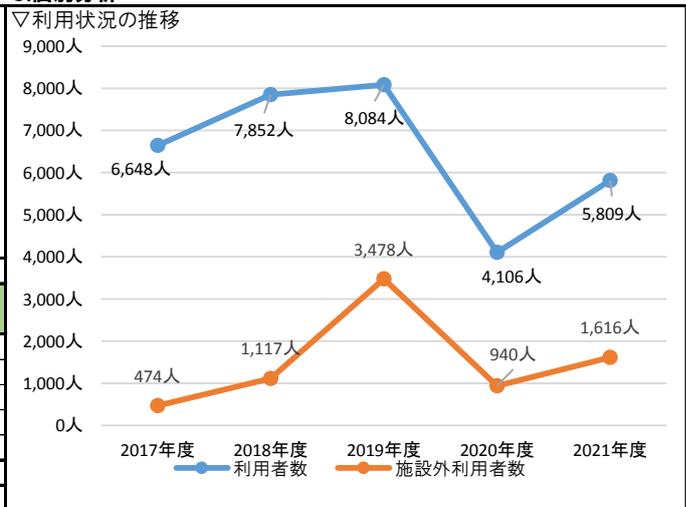
5.財務構造分析



▽事業に関わる人員 (単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度		2021 合計	2020 合計
				(業務)	(補助)		
資料館管理事務	1.9		0.3	0.3	0.3	2.5	2.6
資料保管事務	0.2		0.7	0.7	0.7	1.6	1.1
展示事務	0.3		0.9	0.9	0.9	1.2	0.8
図書刊行	0.2		0.4	0.4	0.4	0.6	0.7
普及事業	0.4		1.3	1.3	1.3	1.7	1.7
2021年度 歳出目 合計	3.0	0.0	0.0	3.6	1.0	7.6	6.9
2020年度 歳出目 合計	3.0	0.0	0.0	2.9	1.0	6.9	

6.個別分析



7.総括

①財務情報と非財務情報(取り組み・成果・人員等)の分析

◆自由民権資料館において、「町田と江戸ーヒト・モノの交流史ー」、「石阪昌孝ー豪放磊落な民権家の生涯ー」、「第3回市民協働展 歴史を学び、考えるー仲間とともに深く合うー」等、計4回の特別展・企画展を実施しました。また、2021年度から、三輪の森ビジターセンターで博物館から移管された民俗資料の展示を開始し、2か所の展示施設の観覧者数の合計は11,465人となりました。

②新型コロナウイルス感染症の影響、対策および財務への影響の分析

◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を講じて展覧会、講座を再開したため、2020年度と比較して利用者数が1,703人(41%)増加し、施設利用者1人あたりのコストが4,179円(△26%)減少しました。
◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、図書館等の広い会場で講座を開催したり、歴史散策などの屋外でのイベントを積極的に実施したことにより、2020年度と比較して施設外利用者数が676人(72%)増加しました。

③2021年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆「町田市自由民権資料館のあり方見直し方針」に示したためざす姿を実現するため、市民に町田市の通史を伝えるための展示を実施することや、史料整理を着実に進めるための体制を整備する必要があります。
◆新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、町田デジタルミュージアムと連動させた、非接触型の展示環境を整備する必要があります。
◆施設の老朽化に伴い、維持補修費が年々増加しているため、計画的な修繕が必要です。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆町田市の歴史の面白さを伝えるため、自由民権資料館の展示をリニューアルします。考古・歴史・民俗資料を一体的に活用した通史展示とともに、自由民権運動を中心とした展示を実施します。◆町田デジタルミュージアムと連動した、非接触型の展示環境を整備します。	◆町田市の歴史を後世に伝えるため、新たな『町田市史』編さんに向けて、様々な課題を整理し準備を行い、重要史料群の整理を進めます。 ◆展示、収蔵環境の保全のため、計画的に修繕を実施します。

2021年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	生涯学習センター	歳出目名	生涯学習センター費
				事業類型	a:施設所管型

1.組織概要

組織の使命	市民が生涯にわたって、いつでもどこでも自由に学び続け、支え合うことができるよう支援します。	取 り 組 み の 体 系	◆市民がデジタル化に対応できるよう、2021年度は、デジタル初心者向け体験講座「なんでもスマホ相談室」を39回開催し、その内、地域団体と連携して、9回地域で開催しました。他市では高齢者対象、集合形式で実施する事例が多い中、町田市生涯学習センターでは、一人ひとりに寄り添った支援を行えるよう、世代を限定せず、マンツーマン形式で実施しています。
所管事務	<ul style="list-style-type: none"> ◆生涯学習に係る全体計画の立案及び推進に関すること ◆市民大学事業その他の生涯学習に係る講座、講演会等の実施に関すること ◆生涯学習に係る活動支援、団体及び関係機関との連絡及び総合調整に関すること ◆生涯学習に係る情報の集約及び市民への提供、相談業務に関すること ◆生涯学習センターの施設、設備管理並びに市民への利用提供に供すること 		

2.2020年度末の総括と2021年度末の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆町田市生涯学習審議会からの答申を踏まえ、町田市生涯学習センターのあり方見直し方針を策定する必要があります。
- ◆施設を効率的・効果的に運営するため、管理運営手法を検討する必要があります。
- ◆市民が場所や時間の制約なく多様な学習資源に触れることができるよう、学習情報の提供や主催講座のデジタル化を推進する必要があります。
- ◆身近な場所でのきっかけづくりや地域課題の解決のため、主催事業の地域展開(アウトリーチ)を推進する必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

	短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ◆町田市生涯学習センターのあり方見直し方針を策定します。 ◆市民がデジタル化に対応できるよう、デジタルデバッド対策事業を実施します。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆町田市生涯学習センターのあり方見直し方針に基づき、事業及び効率的効果的な管理運営体制の見直しを行います。
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ ◆2021年11月に町田市生涯学習審議会から受けた「町田市生涯学習センターのあり方について」の答申を踏まえ、現状や課題を分析し、2022年2月に「町田市生涯学習センターのあり方見直し方針」を策定しました。 ◆デジタルデバッド対策事業として、デジタル初心者向け体験講座「なんでもスマホ相談室」を39回開催し、受講者数は322人でした。 	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
生涯学習センターの施設利用率	%	目標	-	-	-	70	増	主催事業、施設貸出等で生涯学習センターを利用した割合(新型コロナワクチン接種による利用を除く)
		実績	77	51	58			
地域で実施した講座の延べ講座数	講座	目標	-	13	14	-	14	生涯学習センター以外の場所で地域団体との連携や地域課題の解決を目的に実施した主催講座等の延べ講座数
		実績	13	10	19		(2021年度)	
市民提案型事業「まちチャレ」実施数	事業	目標	5(2)	6(3)	6(3)	7(3)	8(4)	町田市教育プラン2019-2023、町田市生涯学習推進計画2019-2023における重点事業。()は地域での実施数。
		実績	5(2)	6(2)	6(3)		(2023年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆2020年度と比較して新型コロナウイルス感染症の影響による休館日数は減少しましたが、6月1日から、7階フロアを新型コロナワクチン接種会場として貸し出したことにより、活動の場を他施設に移した団体や、感染拡大により活動を控えた団体もいることから、施設利用率は58%に留まりました。
- ◆事業の地域展開(アウトリーチ)は、地区協議会との連携講座、デジタル初心者向け体験講座、市民大学及びことぶき大学の講座等、19講座を地域で実施し、課題解決に向けた学習支援を推進することができました。
- ◆市民提案型事業「講座づくり★まちチャレ」は、6講座中3講座を生涯学習センター以外で実施し、学習成果を活かす機会を充実させることができました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2019年度	2020年度 A	2021年度 B	差額 B-A	勘定科目	2019年度	2020年度 A	2021年度 B	差額 B-A
人件費	159,210	150,254	152,218	1,964	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	10,091	7,436	8,991	1,555	保険料	0	0	0	0
物件費	39,808	30,604	41,637	11,033	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	16,303	12,806	19,984	7,178	都支支出金	4,864	4,693	8,892	4,199
維持補修費	4,628	2,151	958	△ 1,193	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	11,420	5,891	4,319	△ 1,572
補助費等	63,480	58,846	57,846	△ 1,000	その他	5,679	1,051	1,835	784
減価償却費	18,507	18,507	18,507	0	行政収入 小計(a)	21,963	11,635	15,046	3,411
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 278,265	△ 266,421	△ 288,914	△ 22,493
賞与・退職手当引当金繰入額	14,595	17,694	32,794	15,100	金融収支差額 (d)	△ 4,948	△ 3,658	△ 2,365	1,293
行政費用 小計 (b)	300,228	278,056	303,960	25,904	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 283,213	△ 270,079	△ 291,279	△ 21,200
特別費用 (g)	0	0	3,761	3,761	特別収入 (f)	0	0	0	0
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	0	△ 3,761	△ 3,761	当期収支差額 (e)+(h)	△ 283,213	△ 270,079	△ 295,040	△ 24,961

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	補助費等
決算額の主な内訳	常勤職員 120,309千円 再任用職員 3,678千円 会計年度任用職員 26,913千円 会計年度任用補助職員報酬 1,318千円	町田センタービル管理費負担金 46,759千円 障がい者青年学級担当者謝礼 4,865千円 市民大学講座講師謝礼 1,897千円 さがまちコンソーシアム年会費 1,000千円 など
主な増減理由	異動に伴う職員構成の変化により、常勤職員、会計年度任用職員等の人件費が1,964千円増加。	新型コロナウイルス感染症の影響で縮小していた事業を再開したことにより、障がい者青年学級担当者謝礼が1,016千円増加。協定見直しによりさがまちコンソーシアム運営支援負担金が2,000千円減少。
勘定科目	物件費	都支支出金
決算額の主な内訳	生涯学習センター光熱水費 16,686千円 生涯学習センター施設貸出・管理業務委託 12,467千円 生涯学習施設Wi-Fi環境整備委託 2,967千円 デジタルデバッド対応促進事業業務委託 1,414千円 など	子ども・長寿・居場所包括補助事業費 4,443千円 障がい者施策推進包括補助事業費 2,872千円 家庭教育支援基盤形成事業費 1,047千円 人生100年時代セカンドライフ応援事業費 530千円
主な増減理由	施設の休館日数の減少により、生涯学習センター光熱水費が3,671千円、施設貸出・管理業務委託が3,297千円増加。新規事業の実施により、生涯学習施設Wi-Fi環境整備委託が2,967千円増加。	生涯学習施設Wi-Fi環境整備委託及びデジタルデバッド対応促進事業業務委託の特定財源である都補助金の増加などにより、4,199千円増加。

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2020年度末 A	2021年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2020年度末 A	2021年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	162,704	167,497	4,793
	不納欠損引当金	0	0	0				
	その他の流動資産	0	0	0	還付未済金	0	0	0
固定資産	有形固定資産	2,206,805	2,188,696	△ 18,109	地方債	153,857	154,219	362
	土地	1,706,823	1,706,823	0	賞与引当金	8,847	13,278	4,431
	建物(取得価額)	810,237	810,237	0	その他の流動負債	0	0	0
	建物減価償却累計額	△ 310,255	△ 328,364	△ 18,109	固定負債	269,493	125,676	△ 143,817
	工作物(取得価額)	0	0	0	地方債	158,886	4,667	△ 154,219
	工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	110,607	121,009	10,402
	無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	インフラ資産	0	0	0	負債の部合計	432,197	293,173	△ 139,024
	建設仮勘定	0	0	0	純資産	1,779,252	1,899,768	120,516
	その他の固定資産	4,644	4,245	△ 399	純資産の部合計	1,779,252	1,899,768	120,516
資産の部合計	2,211,449	2,192,941	△ 18,508	負債及び純資産の部合計	2,211,449	2,192,941	△ 18,508	

④貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	生涯学習センター 1,706,823千円(区分所有 持分100万分の254,148)	生涯学習センター 778,241千円 生涯学習センター陶芸スタジオ 31,996千円	重要物品 1,260千円 出資金((株)町田センタービル株券) 2,985千円
主な増減理由	増減なし	減価償却により、生涯学習センターが18,109千円減少。	減価償却により、重要物品が399千円減少。

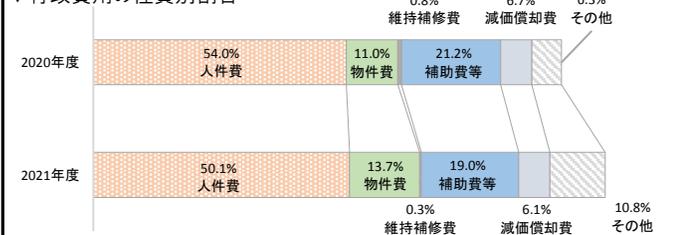
⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	15,046	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	276,744	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	153,857
行政サービス活動収支差額(a)	△ 261,698	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	△ 153,857
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 415,555
				一般財源充当調整額	415,555

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



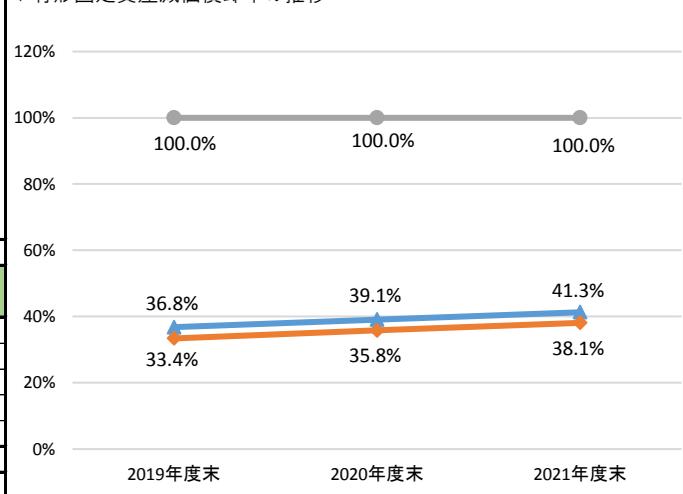
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2021	2020
						合計	合計
生涯学習センター管理事務	5.2		0.3	0.2	5.7	5.8	
生涯学習支援事業	3.1		0.5		3.6	3.6	
生涯学習講座事業	5.8			7.8	13.6	13.3	
さがまちコンソーシアム事務	0.3				0.3	0.1	
施設管理	0.7		0.3	0.1	1.1	1.2	
2021年度 歳出目 合計	15.1	0.0	1.1	7.8	0.3	24.3	
2020年度 歳出目 合計	14.0	1.0	1.0	8.0	0.0	24.0	

6.個別分析

▽有形固定資産減価償却率の推移



7.総括

①財務情報と非財務情報(取り組み・成果・人員等)の分析

◆急激に進むデジタル化に対応するため、学習室等にWi-Fi環境を整備し(環境整備委託料2,967千円)、館内タブレット端末貸出業務を実施するとともに、デジタル初心者向け体験講座「なんでもスマホ相談室」を開催し(業務委託料1,414千円)、デジタルデバインド解消に向けた取組を進めました。

◆新型コロナウイルス感染症の影響で縮小していた事業を再開したことから、2020年度と比較して講座受講料収入は659千円(96%)増加し1,342千円となりましたが、2019年度との比較では445千円(△25%)減少しています。

②新型コロナウイルス感染症の影響、対策および財務への影響の分析

◆2020年度と比較して新型コロナウイルス感染症の影響による休館日数が33日減少(△49%)し、開館日数が増加したため、生涯学習センター光熱水費が3,671千円(28%)増加し16,686千円、生涯学習センター施設貸出・管理業務委託が3,297千円(36%)増加し12,467千円になりました。

◆6月1日から、7階フロアを新型コロナウイルスワクチン接種会場として貸し出し、一部施設の一般貸出を中止したため、2020年度と比較して利用人数は10,733人(△16%)減少し57,411人、施設使用料は1,488千円(△26%)減少し4,283千円となりました。

③2021年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆町田市生涯学習センターのあり方見直し方針に基づき、事業内容、管理運営体制の見直しを行い、実行計画を策定する必要があります。

◆身近な場所での学びのきっかけづくりや、地域課題の解決のため、主催及び共催事業の地域展開(アウトリーチ)を進める必要があります。

◆市民が豊かな人生を送ることができるよう、多様化・複雑化する社会的課題への解決に向けた取組を進める必要があります。

◆施設の老朽化に対応するため、計画的に修繕を実施してまいります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆町田市生涯学習センターのあり方見直し方針に基づき、事業内容、運営形態の見直しを行い、実行計画を策定します。 ◆新たに地域利用を開始する町田第一中学校の特別教室を活用して、地域活性化につなげるイベント等を実施します。	◆新たに生じる社会的課題への対応を学ぶ講座や、デジタル初心者向け体験講座を開催し、多様化・複雑化する社会的課題への解決に向けた取組を推進します。 ◆施設の老朽化に対応するため、計画的に修繕を実施してまいります。

2021年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	図書館	歳出目名	図書館費
				事業類型	a.施設所管型

1.組織概要

組織の使命	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。	他自治体の取り組み等	◆セルフ貸出などの非接触型のサービスを可能とするICタグを導入しているのは多摩26市中15市ありますが、それに加えてスマートフォンによる蔵書点検やより詳細な所在位置情報を案内できるセルフ予約棚の設置を実現する、ICタグ・カラーバーコードシステムを導入しているのは町田市だけです。町田市立図書館はこのシステムを2014年度のシステム更改から導入しています。
所管事務	◆図書館資料の収集、整理、閲覧、貸出しに関する事 ◆市外図書館との図書資料の相互貸借に関する事 ◆図書館運営の企画、調査、研究及び統計に関する事 ◆読書普及を目的とした各種行事に関する事 ◆移動図書館の運営に関する事及び図書館の維持管理に関する事 ◆地域文庫等関係団体の育成援助、図書館活動に係わるボランティアの育成に関する事 ◆町田市立図書館協議会に関する事		

2.2020年度末の総括と2021年度状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
 ◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」の実行にあたり、アンケート等で得られた市民ニーズや社会情勢の変化を反映させる必要があります。また、民間活力の導入効果を検証するため、定期的に利用者満足度を把握する必要があります。
 ◆さらなる中高生のニーズの把握や、効果的なPR方法の検討をする必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

	短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
取組状況	◆2022年4月から、鶴川駅前図書館に指定管理者制度を導入します。 ◆図書館利用の少ない中高生のニーズを把握するため、「町田創造プロジェクト」メンバーや子どもセンターの運営委員との意見交換を行う機会をつくり、中高生が図書館事業に参加できる仕組みについて検討します。 ○ ◆指定管理者との協定書に開館日数や開館時間の拡大などを盛り込み、市民サービスの向上が図れるように、協定を締結しました。◆MSP(町田創造プロジェクト)や図書館実習生からボランティアの活動分野についてヒアリングを行ったり、8月に開催した子ども向けイベント「絵本づくりワークショップ」では、MSPから2人のボランティアに絵本作成の参加とフォローをしてもらうなど、中高生の図書館事業参加の仕組みを検討しました。	◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	4,046,000	4,086,000	4,086,000	4,086,000	4,086,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(視聴覚資料を含む)
		実績	3,305,383	2,714,271	3,210,351		(2023年度)	
蔵書回転率	回	目標	3.28	3.30	3.30	3.30	3.30	貸出点数を蔵書数で除したものの(蔵書1点につき年間何回貸出されたかを示す数値)
		実績	2.73	2.23	2.62		(2023年度)	
来館者数	人	目標	2,090,000	2,100,000	2,100,000	2,100,000	2,100,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	1,892,224	1,397,115	1,486,517		(2023年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆貸出点数、蔵書回転率、来館者数は、目標達成には至りませんでした。2020年度と比較し、全て増加しています。◆5月24日から玉川学園コミュニティセンターでの予約受渡しサービスを開始しました。◆2020年度に試行的に実施したせりがや冒険遊び場や保育園、幼稚園、町田シバヒロへの移動図書館の本格的な出張運行や、新たに大地沢青少年センター、小山子どもクラブ「さん」への出張運行も実施しました。◆図書館にあまり来ることがない若者層に向けて、さがまち学生Clubの学生に協力してもらい、移動図書館のPR動画を作成し、YouTubeで配信しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2019年度	2020年度 A	2021年度 B	差額 B-A	勘定科目	2019年度	2020年度 A	2021年度 B	差額 B-A
人件費	805,869	771,959	733,553	△ 38,406	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	16,434	14,037	12,614	△ 1,423	保険料	0	0	0	0
物件費	372,975	291,085	286,821	△ 4,264	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	162,547	111,004	110,624	△ 380	都支出金	0	0	1,626	1,626
維持補修費	17,206	26,521	15,116	△ 11,405	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	11	11	11	0
補助費等	53,600	54,766	54,607	△ 159	その他	2,924	1,446	1,553	107
減価償却費	50,205	48,821	49,756	935	行政収入 小計(a)	2,935	1,457	3,190	1,733
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 1,343,421	△ 1,229,022	△ 1,205,256	23,766
賞与・退職手当引当金繰入額	46,501	37,327	68,593	31,266	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	1,346,356	1,230,479	1,208,446	△ 22,033	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 1,343,421	△ 1,229,022	△ 1,205,256	23,766
特別費用 (g)	46,692	48,747	51,395	2,648	特別収入 (f)	289	2,329	1,207	△ 1,122
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 46,403	△ 46,418	△ 50,188	△ 3,770	当期収支差額 (e)+(h)	△ 1,389,824	△ 1,275,440	△ 1,255,444	19,996

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 353,926千円 再任用職員 41,788千円 会計年度業務職員 304,964千円 会計年度補助職員 32,476千円 など	ICタグカラーバーコードシステム使用料 84,550千円 町田市立中央図書館施設運営補助業務委託料 46,772千円 図書館情報システムサービス使用料 42,930千円 鶴川駅前図書館総合管理業務委託料 22,528千円 など
主な増減理由	職員構成の変化及び時間外勤務時間の削減により、38,406千円の減少。	玉川学園コミュニティセンター予約本受渡機能委託料858千円の増加や公衆無線LAN設置及び配線作業委託料1,414千円が増加した一方、アルコール消毒液購入5,299千円の減少などにより、4,264千円の減少。
勘定科目	維持補修費	都支出金
決算額の主な内訳	中央館排水管更生工事に伴う負担金 4,235千円 中央館照明器具LED化修繕 1,900千円 中央館非常電源専用盤交換工事に伴う負担金 1,623千円 中央館5階空調機冷温水三方弁修繕に伴う負担金 825千円 など	子ども・長寿・居場所包括補助事業費補助金 1,626千円
主な増減理由	中央図書館映像音響設備改修工事5,170千円の減少や金森図書館防犯カメラ設備更新工事4,058千円の減少など生涯学習施設管轄事業としての改修工事を行わなかったため、11,405千円の減少。	デジタル利用支援講座委託料及び中央図書館Wi-Fi整備委託の特定財源である都補助金1,626千円の増加。

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2020年度末 A	2021年度末 B	差額 B-A	勘定科目		2020年度末 A	2021年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債		37,327	53,184	15,857	
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	0	
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	990,714	950,639	△ 40,075		賞与引当金	37,327	53,184	15,857
		土地	343,044	343,044	0		その他の流動負債	0	0	0
		建物(取得価額)	1,623,410	1,623,410	0	固定負債		388,699	375,806	△ 12,893
		建物減価償却累計額	△ 975,740	△ 1,015,815	△ 40,075		地方債	0	0	0
		工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金	388,699	375,806	△ 12,893
	工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0	0	
	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計		426,026	428,990	2,964	
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	純資産		2,842,621	2,803,071	△ 39,550
		土地	0	0	0					
		工作物(取得価額)	0	0	0					
工作物減価償却累計額		0	0	0						
無形固定資産		0	0	0	純資産の部合計		2,842,621	2,803,071	△ 39,550	
建設仮勘定	0	0	0	負債及び純資産の部合計		3,268,647	3,232,061	△ 36,586		
その他の固定資産	2,277,933	2,281,422	3,489							
資産の部合計	3,268,647	3,232,061	△ 36,586							

④貸借対照表の特徴的事項

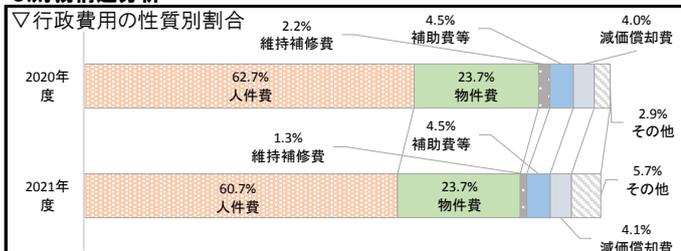
勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	中央図書館 262,513千円(区分所有持分100万分の273,298) さるびあ図書館 80,531千円	中央図書館 1,402,817千円 さるびあ図書館 109,131千円 木曾山崎図書館 111,462千円	図書資産 2,258,692千円 出資金(エルム・スリー管理(株)) 6,600千円 忠生図書館書架等備品 16,130千円
主な増減理由	増減なし	減価償却により、40,075千円減少。	購入・寄贈・除籍・特別収入・特別費用により図書資産は13,171千円増加。忠生図書館書架等備品は減価償却により、9,682千円減少。

⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

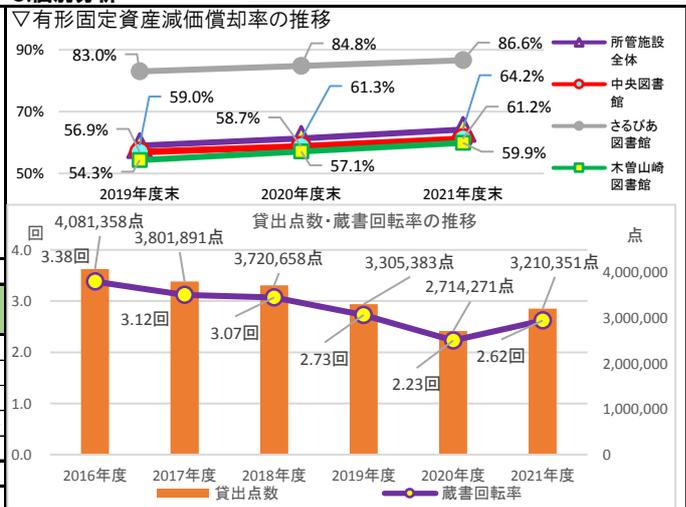
(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	2,780	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	1,175,180	社会資本整備等投資活動支出	33,865	財務活動支出	0
行政サービス活動収支差額(a)	△ 1,172,400	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	△ 33,865	財務活動収支差額(c)	0
				収支差額 合計(a)+(b)+(c)	△ 1,206,265
				一般財源充当調整額	1,206,265

5.財務構造分析



6.個別分析



7.総括

①財務情報と非財務情報(取り組み・成果・人員等)の分析

- ◆「英語多読コーナー」がある中央・鶴川駅前・忠生の図書館を中心に外国語の絵本・児童書を約400冊購入し、その蔵書数は約6,100冊になりました。
- ◆東京都の補助金を活用し、中央図書館にWi-Fi環境を整備して、デジタルサービスに慣れるための講座「はじめてのスマホ体験」を開催しました。
- ◆中央図書館排水管更生工事などの工事や緊急修繕を行い、各施設の維持管理及び安全管理に努めました。

②新型コロナウイルス感染症の影響、対策および財務への影響の分析

- ◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う臨時休館や閉館時間の繰り上げ、おはなし会や各種講座の延期・中止がありました。各種講座等の再開やパーティーを設置しての閲覧席の一部再開などにより、図書館貸出点数は2020年度より496,080点増加し、来館者数も89,402人増加しました。
- ◆リモートワークやオンライン手続きなどデジタル技術を活用したサービスの急速な拡大に伴い、中央図書館にWi-Fi環境を整備し、高齢者がデジタルサービスに慣れるための講座「はじめてのスマホ体験」を3回実施し、42人の参加がありました。参加者からは高評価を得て、追加実施の要望がありました。

③2021年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
- ◆イベントの企画など市民が主体的に参画できるようボランティアの養成や育成の検討をする必要があります。
- ◆電子書籍の導入など、あらゆる市民が利用しやすい図書館づくりを目指す必要があります。
- ◆鶴川図書館の新たな運営体制の開始に向けた準備が必要です。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆指定管理者が適正な管理運営ができているか確認するモニタリングを実施し、民間事業者ならではの図書館サービスを積極的に導入します。◆鶴川図書館の新たな運営体制の開始に向けた準備を行います。◆電子書籍の導入など、あらゆる市民が利用しやすい図書館づくりを進めます。	◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。

2021年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	中央図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	---------	------	---------

1.事業概要

事業目的 市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。

基本情報	根拠法令等	図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則			施設の名称	町田市立中央図書館		
		2019年度	2020年度	2021年度	建設年月日	1990年4月16日		
	蔵書数(視聴覚資料含む)	578,897点	578,172点	579,286点				
	予約・リクエスト件数	165,084件	154,333件	171,697件		2019年度	2020年度	2021年度
	貸出者数	343,159人	266,363人	300,353人	有形固定資産減価償却率	56.9%	58.7%	61.2%

2.2020年度末の総括と2021年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
 ◆中央図書館の立地条件や施設規模などの強みを活かし、町田市の課題解決に役立つ事業を、他機関・他部署と連携して行っていく必要があります。
 ◆居心地のよい空間のある図書館を求める声に応じていく必要があります。◆安心して施設を利用してもらうために、設備等の点検結果を踏まえた迅速な修繕対応と、長期的な維持管理計画に基づく設備改修をする必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆地域や図書館で活動するボランティアに向けた講座や研修を企画する等、地域で活動する市民に役立つ事業を行います。	◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。	◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。	◆老朽化が進む中央図書館を安心して利用してもらうために、2020年度に実施した配管内部劣化診断結果を活用し、施設設備の計画的修繕を行います。
◆市立図書館の中心館として、町田市の課題に対応するための特集コーナーの設置やイベント・事業などを地域館と連携して行います。	◆読み聞かせ活動に関わる保護者やボランティアを対象とした絵本の読み聞かせ講座(25人参加)、図書館ボランティア向け講座(16人参加)、利用者に図書館をもっと活用してもらうための講座(47人参加)を開催しました。◆他部署や他機関と連携した特集コーナーを21回実施しました。◆デジタルデバイド解消の取組や学びの機会を増やすために、Wi-Fi環境を整備しました。		

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	1,127,000	1,138,000	1,138,000	1,138,000	1,138,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(視聴覚資料を含む)
		実績	951,376	750,076	863,199		(2023年度)	
来館者数	人	目標	610,000	612,000	612,000	612,000	612,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	553,290	395,769	460,293		(2023年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆貸出点数・来館者数は目標値や2019年度実績には至りませんでした。2020年度と比較するとどちらも増加しました。◆外国語の絵本・児童書を活用するため、英語多読講演会を2回実施し、86人の参加がありました。◆デジタルデバイドの解消に向けた講習会「はじめてのスマホ体験」を3回実施し、42人の参加がありました。◆集会室を活用した中高生向けグループ学習室「わいわいキャレル」の延べ利用者数は、2020年度よりも倍増して165組377人となりました。◆おはなし会の再開、映画会の開催や講座の実施等、新型コロナウイルス感染症の影響により中止・縮小していた事業を順次再開しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2019年度	2020年度 A	2021年度 B	差額 B-A	勘定科目	2019年度	2020年度 A	2021年度 B	差額 B-A
人件費	368,257	317,854	295,864	△ 21,990	地方税	0	0	0	0
物件費	115,044	118,136	116,541	△ 1,595	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	38,497	53,676	52,942	△ 734	都支支出金	0	0	1,626	1,626
維持補修費	13,930	20,109	14,070	△ 6,039	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	53,378	54,544	54,396	△ 148	その他	1,535	736	890	154
減価償却費	33,895	33,895	34,830	935	行政収入 小計(a)	1,535	736	2,516	1,780
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 617,539	△ 560,565	△ 542,232	18,333
賞与・退職手当引当金繰入額	34,570	16,763	29,047	12,284	金融収支差額(d)	0	0	0	0
行政費用 小計(b)	619,074	561,301	544,748	△ 16,553	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 617,539	△ 560,565	△ 542,232	18,333
特別費用(g)	18,121	26,340	25,170	△ 1,170	特別収入(f)	0	16,694	0	△ 16,694
特別収支差額(f)-(g)=(h)	△ 18,121	△ 9,646	△ 25,170	△ 15,524	当期収支差額(e)+(h)	△ 635,660	△ 570,211	△ 567,402	2,809

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 169,932千円 再任用職員 14,605千円 会計年度任用職員 111,137千円 など	町田市立中央図書館施設運営補助業務委託料 46,772千円 ICタグカラーバーコードシステム使用料 27,310千円 図書館情報システムサービス使用料 13,867千円 など
主な増減理由	職員構成の変化により、21,990千円減少。	公衆無線LAN設置及び配線作業委託料1,414千円などが増加した一方、アルコール消毒液購入1,489千円の減少や中央図書館施設運営補助業務委託料1,628千円の減少などにより、1,595千円減少。
勘定科目	維持補修費	都支支出金
決算額の主な内訳	排水管更生工事に伴う負担金 4,235千円 照明器具LED化修繕 1,900千円 非常電源専用盤交換工事に伴う負担金 1,623千円 など	子ども・長寿・居場所包括補助事業費補助金 1,626千円
主な増減理由	2020年度に比べ、比較的大規模な改修工事がなかったことにより、6,039千円減少。	デジタル利用支援講座委託料及び中央図書館Wi-Fi整備委託の特定財源である都補助金1,626千円の増加。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2021	863,199	631	△ 117	人件費や維持補修費などの減少により、単位あたりコストが117円減少しました。
		2020	750,076	748	97	
		2019	951,376	651		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2021	5,968	91,278	△ 2,774	人件費や維持補修費などの減少により、単位あたりコストが2,774円減少しました。
		2020	5,968	94,052	△ 9,680	
		2019	5,968	103,732		

④貸借対照表

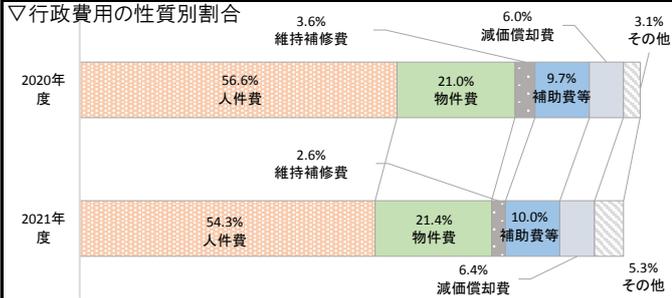
(単位:千円)

勘定科目		2020年度末 A	2021年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2020年度末 A	2021年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	16,763	23,144	6,381
	不納欠損引当金	0	0	0				
	その他の流動資産	0	0	0	還付未済金	0	0	0
固定資産	有形固定資産	844,090	809,260	△ 34,830	地方債	0	0	0
	土地	262,513	262,513	0	賞与引当金	16,763	23,144	6,381
	建物(取得価額)	1,402,817	1,402,817	0	その他の流動負債	0	0	0
	建物減価償却累計額	△ 821,240	△ 856,070	△ 34,830	固定負債	186,856	179,259	△ 7,597
	工作物(取得価額)	0	0	0	地方債	0	0	0
	工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	186,856	179,259	△ 7,597
	無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	インフラ資産	0	0	0	負債の部合計	203,619	202,403	△ 1,216
	建設仮勘定	0	0	0	純資産	1,954,587	1,923,919	△ 30,668
	その他の固定資産	1,314,116	1,317,062	2,946	純資産の部合計	1,954,587	1,923,919	△ 30,668
資産の部合計	2,158,206	2,126,322	△ 31,884	負債及び純資産の部合計	2,158,206	2,126,322	△ 31,884	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	中央図書館 262,513千円(区分所有持分100万分の273,298)	中央図書館 1,402,817千円(専有部分建物面積合計5,262.05㎡)	図書資産 1,310,462千円 出資金(エルム・スリー管理(株))6,600千円
主な増減理由	増減なし	減価償却により、34,830千円減少。	購入17,431千円、寄贈2,514千円、除籍△16,050千円、特別費用△949千円により、図書資産額が2,946千円増加。

5.財務構造分析



6.個別分析



▽事業に関わる人員 (単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度		2021 合計	2020 合計
				(業務)	(補助)		
図書館管理事務	5.7	0.2	0.4	0.1	6.4	6.5	
各館庶務事務	5.1	0.8	1.7	0.6	8.2	6.6	
企画運営事務	6.3	0.2	2.3	0.1	8.9	8.7	
資料貸出・閲覧業務	4.5	1.5	21.5	2.9	30.4	34.2	
利用援助・普及事業	2.4	0.3	3.9		6.6	5.7	
2021年度 特定事業 合計	24.0	3.0	0.0	29.8	3.7	60.5	61.7
2020年度 特定事業 合計	24.0	3.0	0.0	31.2	3.5	61.7	

7.総括

①財務情報と非財務情報(取り組み・成果・人員等)の分析

◆新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年度に実施できなかった事業を感染症対策を行いながら再開し、おはなし会は延べ35回205人参加、中高生向けの「一日図書館員」は延べ4回13人参加となりました。「本のおたのしみ袋」は需要を見込んで用意する数を増やした結果、284袋852冊と貸出が倍増しました。青少年映画会「Yシネマ」や謎解きレファレンス講座「まちクエ2021」を実施しました。子ども映画会の鑑賞者数は全1回で46人、映画会は全39回で1,540人となり、定員を少なくしていますが鑑賞者数は増加傾向にあります。◆トイレの排水管更生工事や照明器具LED化修繕などの修繕を行い、利用環境を改善しました。

②新型コロナウイルス感染症の影響、対策および財務への影響の分析

◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う臨時休館や閉館時間の繰り上げ、おはなし会や各種講座の延期・中止をしましたが、各種講座・イベント等の人数制限しての再開やパーティションを設置しての閲覧席の一部再開により、図書館貸出点数は2020年度より113,123点増加し、来館者数も64,524人増加しました。

◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、パーティションや手指用消毒液を購入、設置したほか、予約照会機やセルフ貸出機等の定期的な清掃、消毒などの対応を行いました。

③2021年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
- ◆中央図書館の立地条件や施設規模などの強みを生かし、地域の課題解決に役立つ事業を、他機関・他部署と連携して行っていく必要があります。
- ◆イベントの企画など市民が主体的に参画できるようボランティアの養成や育成の検討をする必要があります。
- ◆安心して施設を利用してもらうために、設備の点検結果を踏まえた迅速な修繕対応と、長期的な維持管理計画に基づく設備改修をする必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆地域や図書館で活動するボランティアに向けた講座や研修を企画する等、地域で活動する市民に役立つ事業を行います。◆市立図書館の中心館として、地域の課題に対応するための特集コーナーの設置やイベント・事業などを地域館と連携して行います。◆イベントの企画など市民が主体的に参画できるようなボランティアについて検討します。	◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。◆老朽化が進む中央図書館を安心して利用してもらうために、消防設備点検等の結果を活用し、誘導灯改修工事や放送設備更新工事など、施設設備の計画的修繕を行います。

2021年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	さるびあ図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	-----------	------	---------

1.事業概要

目的 市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。

基本情報	根拠法令等	図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則			施設の名称	町田市立さるびあ図書館		
		2019年度	2020年度	2021年度	建設年月日	1972年5月22日		
	蔵書数	134,421点	133,896点	133,109点				
	予約・リクエスト数	63,702件	65,491件	85,567件		2019年度	2020年度	2021年度
	貸出者数	85,200人	70,938人	87,674人	有形固定資産減価償却率	83.0%	84.8%	86.6%

2. 2020年度末の総括と2021年度状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
- ◆移動図書館1巡回あたりの貸出冊数は増加傾向にあります。新型コロナウイルス感染症が拡大している社会情勢のなか、外出自粛の影響があるのか等、今後の貸出冊数の推移を分析していく必要があります。
- ◆子どもの読書活動を推進するため、学校図書館支援貸出を充実させる必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆移動図書館巡回場所や予約資料受け渡し場所等、図書館遠隔地サービスの見直し検討を行います。	◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。	◆移動図書館のイベント運行や幼稚園・保育園への出張運行を本格実施します。	◆学校の関係者との連携を深め、ニーズ等の調査結果を学校図書館支援貸出サービスの改善に活かします。
◆学校図書館支援貸出の充実のため、学校の関係者にニーズの調査やヒアリングを行います。	◆適切な修繕等を行い、施設の安全管理に努めます。		
取組状況 ○	◆中長期的なサービス拠点の素案、移動図書館車両、巡回場所について、図書館協議会で意見を聴取しました。		
	◆せりがや冒険遊び場や保育園・幼稚園等へ運行について、本格実施に移行しました。		
	◆学校図書館支援貸出の学校関係者へのアンケート案を作成しました。		

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	389,000	392,000	392,000	392,000	392,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(移動図書館2台の貸出点数を含む)
		実績	322,493	266,215	334,077		(2023年度)	
来館者数	人	目標	226,000	228,000	228,000	228,000	228,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	183,144	124,522	131,462		(2023年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆貸出点数・来館者数は目標値には至りませんでした。2020年度と比較するとどちらも増加しました。◆移動図書館2台が37か所のサービスステーションを2週間ごとに巡回して、図書館が近隣にない地域の利用者へのサービスを実施しました。◆移動図書館の出張運行として、芹ヶ谷公園多目的広場(せりがや冒険遊び場前)や幼稚園・保育園に出向き、貸出や読み聞かせ等を行いました。◆小・中学校から依頼を受け、テーマに沿った資料を選書し、28校に2,535冊の配本を行いました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2019年度	2020年度 A	2021年度 B	差額 B-A	勘定科目	2019年度	2020年度 A	2021年度 B	差額 B-A
人件費	101,241	99,897	90,293	△ 9,604	地方税	0	0	0	0
物件費	35,069	24,636	23,996	△ 640	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	15,684	6,804	6,807	3	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	1,135	370	0	△ 370	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	11	11	11	0
補助費等	18	16	12	△ 4	その他	280	151	153	2
減価償却費	2,067	2,067	2,067	0	行政収入 小計(a)	291	162	164	2
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 143,254	△ 131,459	△ 122,332	9,127
賞与・退職手当引当金繰入額	4,015	4,635	6,128	1,493	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	143,545	131,621	122,496	△ 9,125	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 143,254	△ 131,459	△ 122,332	9,127
特別費用 (g)	3,844	4,998	7,269	2,271	特別収入 (f)	3,363	207	4,515	4,308
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 481	△ 4,791	△ 2,754	2,037	当期収支差額 (e)+(h)	△ 143,735	△ 136,250	△ 125,086	11,164

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 40,256千円 再任用職員 9,752千円 会計年度任用職員 40,240千円 など	ICタグカラーバーコードシステム使用料 7,609千円 清掃業務外委託料 4,646千円 図書館情報システムサービス使用料 3,864千円 など
主な増減理由	職員構成の変化により9,604千円減少。	アルコール消毒液購入費などの減少により640千円の減少。
勘定科目	使用料及手数料	
決算額の主な内訳	公衆電話ボックス本柱・支線等設置使用料(行政財産使用料) 11千円	特になし
主な増減理由	増減なし	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2021	334,077	367	△ 127	人件費や物件費などが減少したことにより、単位あたりコストが127円減少しました。
		2020	266,215	494	49	
		2019	322,493	445		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2021	1,260	97,219	△ 7,242	人件費や物件費などが減少したことにより、単位あたりコストが7,242円減少しました。
		2020	1,260	104,461	△ 9,464	
		2019	1,260	113,925		

④貸借対照表

(単位:千円)

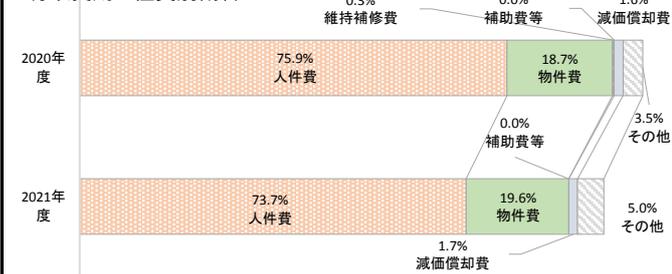
勘定科目		2020年度末 A	2021年度末 B	差額 B-A	勘定科目		2020年度末 A	2021年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債		4,635	6,128	1,493	
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	0	
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	97,997	95,930	△ 2,067		賞与引当金	4,635	6,128	1,493
		土地	80,530	80,530	0		その他の流動負債	0	0	0
		建物(取得価額)	109,131	109,131	0	固定負債		50,583	42,842	△ 7,741
		建物減価償却累計額	△ 91,664	△ 93,731	△ 2,067		地方債	0	0	0
		工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金	50,583	42,842	△ 7,741
	工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0	0	
	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計		55,218	48,970	△ 6,248	
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	純資産		261,596	264,310	2,714
		土地	0	0	0					
		工作物(取得価額)	0	0	0					
工作物減価償却累計額		0	0	0						
無形固定資産		0	0	0	純資産の部合計		261,596	264,310	2,714	
建設仮勘定	0	0	0	負債及び純資産の部合計		316,814	313,280	△ 3,534		
	その他の固定資産	218,817	217,350	△ 1,467						
	資産の部合計	316,814	313,280	△ 3,534						

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	さるびあ図書館 80,530千円	さるびあ図書館 109,131千円	図書資産 217,350千円
主な増減理由	増減なし	減価償却により、2,067千円減少。	購入2,855千円、寄贈638千円、除籍△4,901千円、特別費用△59千円により、図書資産額が1,467千円減少。

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



6.個別分析

▽利用状況の推移



▽事業に関わる人員

業務内容	(単位:人)						
	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2021 合計	2020 合計
図書館管理事務	0.4	0.1				0.5	0.7
各館庶務事務	0.9					0.9	0.9
企画運営事務	0.6			0.2		0.8	0.9
資料貸出・閲覧業務	3.0	1.9		9.4	2.2	16.5	17.8
利用援助・普及事業	0.1			0.7		0.8	0.7
2021年度 特定事業 合計	5.0	2.0	0.0	10.3	2.2	19.5	21.0
2020年度 特定事業 合計	6.0	2.0	0.0	9.4	3.6	21.0	

7.総括

①財務情報と非財務情報(取り組み・成果・人員等)の分析

◆10月の「大地沢に行こう! 2021秋」や11月の「星空シバヒロピクニック」に移動図書館のイベント運行を行い、大地沢青少年センターでの移動図書館来場者数は127人、貸出者数9人、貸出数は27冊、町田シバヒロでの来場者数103人、貸出者数10人、貸出数は22冊でした。
 ◆学校図書館支援事業として、小中学校合わせて62校の登録校のうち28校から依頼を受け、学校が希望する特定のテーマの資料2,535冊を貸出・配本しました。2020年度と比較して依頼校は6校増加しましたが、貸出冊数は156冊減少しました。団体貸出については全館で182団体の登録があり16,883冊の貸出を行いました。

②新型コロナウイルス感染症の影響、対策および財務への影響の分析

◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う臨時休館日数の減少等により、2020年度と比較して来館者数は6,940人増加しました。貸出点数は67,862点増加となり、来館者に対する貸出者の割合が9.7%増加していることから、来館した際には本を借りるという行動様式の変化がうかがわれます。
 ◆感染者数の減少に伴い、6月から未就学児向けや乳幼児向けのおはなし会を再開しました。未就学児向けは14回開催し参加者数は延べ66人、乳幼児向けは9回開催し参加者数は延べ72人でした。
 ◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、パーテーションや手指用消毒液を購入、設置したほか、セルフ貸出機等の定期的な清掃・消毒などの対応を行いました。

③2021年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
 ◆移動図書館の出張運行の状況や各巡回場所の利用状況などを分析して、移動図書館を効率的・効果的に運用する必要があります。
 ◆学校図書館への支援内容を紹介するなど学校図書館と図書館との連携強化を図る必要があります。また学校の関係者へのニーズ調査をする必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
<ul style="list-style-type: none"> ◆移動図書館巡回場所、買い替え時の小型化や予約資料受け渡し場所等、図書館遠隔地サービスの見直し検討を行います。 ◆学校の関係者にニーズ調査やヒアリングを行い、また他市の事例を参考に学校図書館と図書館との連携を強化を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。 ◆学校の関係者との連携を深め、ニーズ等の調査結果を学校図書館支援貸出サービスの改善に活かします。 ◆適切な修繕等を行い、施設の安全管理に努めます。

2021年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	鶴川図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	---------	------	---------

1.事業概要

市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手にいれることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。

基本情報	根拠法令等	図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則			施設の名称	町田市立鶴川図書館		
		2019年度	2020年度	2021年度	建設年月日	1972年2月15日		
	蔵書数	47,999点	48,757点	49,906点				
	予約・リクエスト件数	42,769件	40,230件	47,729件		2019年度	2020年度	2021年度
	貸出者数	52,069人	44,522人	51,572人	有形固定資産減価償却率	-	-	-

2. 2020年度末の総括と2021年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
 ◆高齢化が進む大規模団地に所在し、近隣に保育園、小学校、中学校が多い立地環境にあります。貸出点数や来館者数は年々減少していることから鶴川地域に必要な公共空間として鶴川図書館を地域の方々と考えることが必要です。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆地域に根ざした図書館づくりの基軸として、鶴川団地商店街のイベント等に取り組み、積極的に取り組んでいきます。 ◆今後の鶴川図書館の再編に向けて、地域住民との意見交換の場を設けていきます。		◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた図書館サービス、資源の再配分、運営体制の取組みを推進します。	
取組状況	○	◆鶴川団地のコミュニティビルダーが中心となって行った「だんちでえほん」イベントに本の読み聞かせ方法をアドバイスするなど協力しました。「つるだんの半世紀」イベントでは、メッセージカード用紙を商店街に置かせてもらうなど、地域住民と鶴川図書館50周年を祝いました。 ◆市民との協働運営に向け、UR都市機構や自治会と意見交換しました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	209,000	211,000	211,000	211,000	211,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数
		実績	163,540	139,898	162,281		(2023年度)	
来館者数	人	目標	173,000	174,000	174,000	174,000	174,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	143,373	115,801	68,995		(2023年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆貸出点数・来館者数は目標値や2019年度実績には至りませんでした。貸出点数は2020年度と比較すると2021年度は22,383点増加しました。
 ◆「こんな本がよみたい、つるだん(鶴川団地図書館)さん!」「夏イベントにんきものをさがせ」「おうちあそび、おたすけグッズプレゼント」などの館内イベントや特集を通して、利用者の積極的な利用促進を図りました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2019年度	2020年度 A	2021年度 B	差額 B-A	勘定科目	2019年度	2020年度 A	2021年度 B	差額 B-A
人件費	33,436	43,666	42,482	△ 1,184	地方税	0	0	0	0
物件費	20,906	12,755	12,594	△ 161	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	7,762	1,694	1,761	67	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	18	124	0	△ 124	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	161	164	163	△ 1	その他	75	20	25	5
減価償却費	0	0	0	0	行政収入 小計(a)	75	20	25	5
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 55,589	△ 68,686	△ 60,591	8,095
賞与・退職手当引当金繰入額	1,143	11,997	5,377	△ 6,620	金融収支差額(d)	0	0	0	0
行政費用 小計(b)	55,664	68,706	60,616	△ 8,090	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 55,589	△ 68,686	△ 60,591	8,095
特別費用(g)	1,930	1,317	1,740	423	特別収入(f)	3,647	93	0	△ 93
特別収支差額(f)-(g)=(h)	1,717	△ 1,224	△ 1,740	△ 516	当期収支差額(e)+(h)	△ 53,872	△ 69,910	△ 62,331	7,579

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 22,760千円 会計年度業務職員 16,773千円 会計年度補助職員 2,923千円 など	ICタグカラーバーコードシステム使用料 4,481千円 図書館情報システムサービス使用料 2,275千円 清掃業務委託料 686千円 など
主な増減理由	職員構成の変化により、1,184千円減少。	アルコール消毒液購入費などの減少により、161千円の減少。
勘定科目	特になし	特になし
決算額の主な内訳		
主な増減理由		

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2021	162,281	374	△ 117	貸出点数が増加し、人件費などが減少したことにより、単位あたりコストが117円減少しました。
		2020	139,898	491	151	
		2019	163,540	340		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2021	260	233,138	△ 31,116	貸出点数が増加し、人件費などが減少したことにより、単位あたりコストが31,116円減少しました。
		2020	260	264,254	50,162	
		2019	260	214,092		

④貸借対照表

(単位:千円)

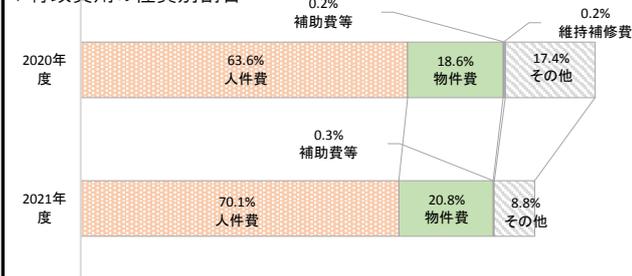
勘定科目		2020年度末 A	2021年度末 B	差額 B-A	勘定科目		2020年度末 A	2021年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債		2,228	3,257	1,029	
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	0	
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	0	0	0		賞与引当金	2,228	3,257	1,029
		土地	0	0	0		その他の流動負債	0	0	0
		建物(取得価額)	0	0	0	固定負債		23,742	24,052	310
		建物減価償却累計額	0	0	0		地方債	0	0	0
		工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金	23,742	24,052	310
		工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計		25,970	27,309	1,339	
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	純資産		33,335	33,362	27
		土地	0	0	0					
		工作物(取得価額)	0	0	0					
工作物減価償却累計額		0	0	0						
無形固定資産		0	0	0						
	建設仮勘定	0	0	0						
	その他の固定資産	59,305	60,671	1,366	純資産の部合計		33,335	33,362	27	
	資産の部合計	59,305	60,671	1,366	負債及び純資産の部合計		59,305	60,671	1,366	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産		
決算額の主な内訳	図書資産 60,671千円	特になし	特になし
主な増減理由	購入1,199千円、寄贈770千円、除籍△586千円、特別費用△17千円により、図書資産額が1,366千円増加。		

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



6.個別分析

▽利用状況の推移



▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度		2021 合計	2020 合計
				(業務)	(補助)		
図書館管理事務	0.1			0.2		0.3	0.3
各館庶務事務	1.2			0.3		1.5	1.5
企画運営事務	0.6			0.2		0.8	0.9
資料貸出・閲覧業務	1.0			3.4	1.5	5.9	6.0
利用援助・普及事業	0.1			0.7		0.8	0.8
2021年度 特定事業 合計	3.0	0.0	0.0	4.8	1.5	9.3	9.5
2020年度 特定事業 合計	3.0	0.0	0.0	5.0	1.5	9.5	

7.総括

①財務情報と非財務情報(取り組み・成果・人員等)の分析

◆館内イベントのうち、児童対象の「夏イベント にんぎものをさがせ」はオリンピックが開催されることから「にんぎものをさがせ つるだんピック!」とオリンピックの要素を加えました。402人の参加者がありました。◆夏の親子向けイベントの代わりに星のティアラ・ゴム巻きの工作キットを配布しました。希望者は47人でした。◆鶴川図書館は2022年2月15日で50周年になることから記念イベントに向けて11月におうちあそびのたつじんになろうで折り紙と交換で50周年お祝いコメント、鶴川図書館の思い出などのメッセージを募り、111枚集まりました。開館当時の写真パネルを展示し「つるだんの半世紀」館内イベントを実施しました。鶴川図書館の50周年をアピールし、予想以上の反響がありました。

②新型コロナウイルス感染症の影響、対策および財務への影響の分析

◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う臨時休館日数は減少しましたが、2020年度と比較して来館者数は46,806人減少しました。一方、貸出点数は22,383点増加しました。来館者数が減少する中、来館者数に占める貸出者数の割合が約36%上昇していることから、来館する機会は減らしつつ、来館した際には本を借りるという行動様式の変化がうかがわれます。◆鶴川地域子育て相談センター主催でミニ講座「親子で楽しむ絵本講座」とミニおはなし会を5月に開催し、22人の参加者がありました。◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、セルフ貸出機の定期的な清掃、消毒などの対応を行いました。

③2021年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。◆高齢化が進む大規模団地に所在し、近隣に保育園、小学校、中学校が多い立地環境にあります。来館者数は年々減少していることから鶴川地域に必要な公共空間として鶴川図書館を地域の方々と考えることが必要です。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆地域に根ざした図書館づくりの基軸として、鶴川団地商店街のイベント等に引き続き、積極的に取り組んでいきます。 ◆今後の鶴川図書館の再編に向けて、地域住民との意見交換の場を設けていきます。市民協働型運営団体支援業務委託を進め、協働運営主体への支援を目指します。	◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。

2021年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	金森図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	---------	------	---------

1.事業概要

目的 市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。

基本情報	根拠法令等	図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則			施設の名称	町田市立金森図書館		
	蔵書数	2019年度	2020年度	2021年度	建設年月日	2000年7月4日		
	蔵書数	125,710冊	124,641冊	126,581冊				
	予約・リクエスト件数	125,158件	122,820件	145,282件		2019年度	2020年度	2021年度
	貸出者数	162,148人	136,734人	160,877人	有形固定資産減価償却率	-	-	-

2.2020年度末の総括と2021年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
- ◆他の機関と連携して、地域の課題解決や生活に役立つ情報を提供することが必要です。
- ◆様々な年代の方に利用していただけるように、子ども向けのイベントを続けながら、シニア向けの事業を推進していく必要があります。
- ◆建築後20年が経過し、施設の維持管理のための費用を確保する必要があります。また、適正な管理と修繕により、利用者の安全を最優先に快適な読書環境を整えていく必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

	短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ◆他部署と連携した資料提供、特集展示を行って利用促進を図ります。 ◆開館20年が経過したことを機に、さらに多くの人に利用していただけるように、様々な行事を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。 ◆老朽化が進む金森図書館を安心して利用してもらうために、施設や設備の修繕を行い、施設の安全管理に努めます。
○	<ul style="list-style-type: none"> ◆他部署と連携した資料提供、特集展示を3回、延べ約3ヶ月間行い、利用の促進を図りました。 ◆夏休みの児童向けイベント、出張絵本講座など、年間14件に及びる行事を行い、2020年度と比較して貸出者数が24,143人の増加となりました。 	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	715,000	722,000	722,000	722,000	722,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数
		実績	583,086	486,043	584,238		(2023年度)	
来館者数	人	目標	259,000	260,000	260,000	260,000	260,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	236,446	203,724	179,945		(2023年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆貸出点数・来館者数は目標値には至りませんでしたが、2020年度と比較すると来館者数は減少したものの、貸出点数は増加となりました。◆夏休みイベントとして「金森キャラクターを探そう」他2件を実施し、延べ1,695人の利用者に参加いただきました。また、お楽しみ袋形式での本の貸出イベントを2回開催し、2020年度イベントと比較して129袋増加となる265袋の貸出を行いました。◆他部署と連携して、「麻薬乱用撲滅特集展示」「乳がん予防特集展示」「骨粗しょう症予防に関する特集」、出張絵本講座「育児の中での絵本の活用」を実施しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

勘定科目	2019年度				2020年度				2021年度			
	2019年度	2020年度	2021年度	差額	2019年度	2020年度	2021年度	差額	2019年度	2020年度	2021年度	差額
		A	B	B-A		A	B	B-A		A	B	B-A
人件費	68,499	68,892	68,411	△ 481	地方税	0	0	0	0	0	0	0
物件費	46,299	31,220	31,014	△ 206	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
うち委託料	19,878	7,269	7,543	274	都支支出金	0	0	0	0	0	0	0
維持補修費	260	4,971	120	△ 4,851	分担金及負担金	0	0	0	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0	0	0	0
補助費等	8	8	7	△ 1	その他	361	234	178	△ 56	361	234	178
減価償却費	0	0	0	0	行政収入 小計(a)	361	234	178	△ 56	361	234	178
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 118,678	△ 109,981	△ 105,101	4,880	△ 118,678	△ 109,981	△ 105,101
賞与・退職手当引当金繰入額	3,973	5,124	5,727	603	金融収支差額(d)	0	0	0	0	0	0	0
行政費用 小計(b)	119,039	110,215	105,279	△ 4,936	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 118,678	△ 109,981	△ 105,101	4,880	△ 118,678	△ 109,981	△ 105,101
特別費用(g)	8,911	8,370	5,587	△ 2,783	特別収入(f)	81	161	37	△ 124	81	161	37
特別収支差額(f)-(g)=(h)	△ 8,830	△ 8,209	△ 5,550	2,659	当期収支差額(e)+(h)	△ 127,508	△ 118,190	△ 110,651	7,539	△ 127,508	△ 118,190	△ 110,651

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 21,789千円 再任用職員 3,675千円 会計年度任用職員 42,921千円 など	ICタグカラーバーコードシステム使用料 10,822千円 図書館情報システムサービス使用料 5,495千円 清掃業務委託料 3,152千円 など
主な増減理由	職員構成の変化により481千円減少。	臨時休館日の減少に伴う駐車場管理業務委託料194千円増加などにより、委託料が274千円増加した一方、アルコール消毒液購入費783千円減少などにより、206千円減少。
勘定科目	維持補修費	
決算額の主な内訳	トイレ水洗センサー修繕 64千円 照明器具修繕 41千円 自動ドアセンサー修繕 15千円	
主な増減理由	防犯カメラ設備更新工事終了などにより4,851千円減少。	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2021	584,238	180	△ 47	貸出点数が増加し、維持補修費などが減少したことにより、単位あたりコストが47円減少しました。
		2020	486,043	227	23	
		2019	583,086	204		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2021	1,500	70,186	△ 3,291	維持補修費などが減少したことにより、単位当たりコストが3,291円減少しました。
		2020	1,500	73,477	△ 5,882	
		2019	1,500	79,359		

④貸借対照表

(単位:千円)

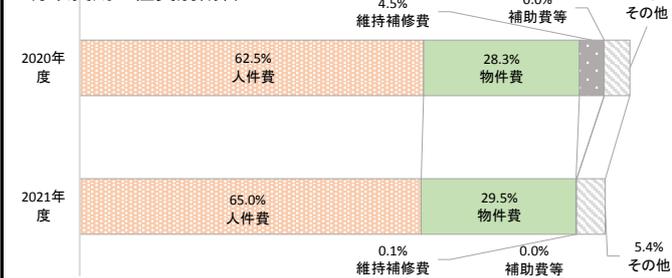
勘定科目		2020年度末 A	2021年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2020年度末 A	2021年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	2,839	4,316	1,477	
	不納欠損引当金	0	0	0					
	その他の流動資産	0	0	0	還付未済金	0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	0	0	0	地方債	0	0	0
		土地	0	0	0	賞与引当金	2,839	4,316	1,477
		建物(取得価額)	0	0	0	その他の流動負債	0	0	0
		建物減価償却累計額	0	0	0	固定負債	24,047	23,676	△ 371
		工作物(取得価額)	0	0	0	地方債	0	0	0
		工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	24,047	23,676	△ 371
	無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0	
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	負債の部合計	26,886	27,992	1,106
		土地	0	0	0	純資産	144,442	145,143	701
		工作物(取得価額)	0	0	0				
	工作物減価償却累計額	0	0	0					
	無形固定資産	0	0	0					
	建設仮勘定	0	0	0					
	その他の固定資産	171,328	173,135	1,807	純資産の部合計	144,442	145,143	701	
	資産の部合計	171,328	173,135	1,807	負債及び純資産の部合計	171,328	173,135	1,807	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産		
決算額の主な内訳	図書資産 173,135千円	特になし	特になし
主な増減理由	購入3,198千円、寄贈2,425千円、除籍△3,853千円、特別収入37千円により、図書資産額が1,807千円増加。		

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合

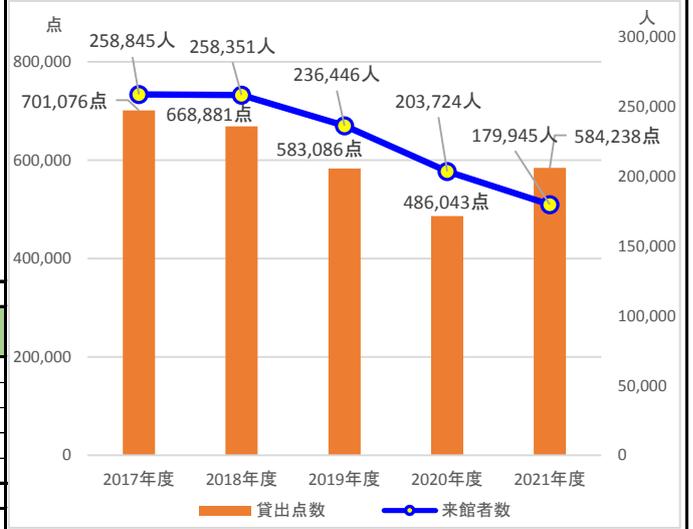


▽事業に関わる人員

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度		2021 合計	2020 合計
				(業務)	(補助)		
図書館管理事務	0.1			0.8		0.9	0.8
各館庶務事務	1.0		0.1			1.1	1.1
企画運営事務	0.4		0.1	0.1		0.6	0.6
資料貸出・閲覧事務	1.5		0.8	9.0	3.0	14.3	12.4
利用援助・普及事業				0.7		0.7	1.9
2021年度 特定事業 合計	3.0	0.0	1.0	10.6	3.0	17.6	16.8
2020年度 特定事業 合計	3.0	0.0	1.0	10.9	1.9	16.8	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①財務情報と非財務情報(取り組み・成果・人員等)の分析

◆児童向け夏休みイベント「金森キャラクターを探そう」「金森図書館クイズ」「顔ハメパネルでまちがいがさし」を実施し、延べ1,695人の利用者に参加いただきました。また、英字新聞で絵本を包んで作った「お楽しみ袋」形式での本の貸出イベントを2回開催し、2020年度イベントと比較して129袋増加となる265袋の貸出を行いました。◆2020年度に実施した講座のフォローアップとして、語り手ボランティアを対象とした絵本の読み聞かせ講座実践編を実施しました。2020年度講座参加者は6人でしたが、10人増加となる語り手ボランティア16人に参加いただきました。◆子育て推進課との協働による保護者向け出張絵本講座を実施しました。2020年度と比較し6人増加となる親子8組16人に参加いただきました。

②新型コロナウイルス感染症の影響、対策および財務への影響の分析

◆2020年度と比較して来館者数は23,779人減少しましたが、貸出者数は24,143人、貸出点数は98,195点増加しました。来館者数が減少するなか、来館者数に占める貸出者数の割合が約22%上昇していることから、来館する機会は減らしつつ、来館した際には本を借りるという行動様式の変化がうかがわれます。◆事前予約制による5組10人までという制限のもと、毎週水曜日に行っていた定期的な図書館内のおはなし会を10月20日から再開しました。臨時おはなし会及び乳幼児向けおはなし会と合わせ、合計32回開催し、延べ241人の参加をいただきました。◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、パーティションや手指消毒液を購入、設置したほか、セルフ貸出機等の定期的な清掃・消毒などの対応を行いました。

③2021年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆効率的・効果的な図書館サービスのアクションプランに掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。◆他の機関と連携して、地域の課題解決や生活に役立つ情報を提供することが必要です。◆様々な年代の方に利用していただけるように、子ども向けのイベントを続けながら、シニア向けの事業を推進していく必要があります。◆建築後21年が経過し、老朽化した施設の維持管理のための費用を確保する必要があります。また、適正な管理と修繕により、利用者の安全を最優先に快適な読書環境を整えていく必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆他部署と連携した資料提供、特集展示を行って利用促進を図ります。 ◆来館者数の増加に向けて、魅力的な行事の実施を継続しながら、シニア向け事業の推進を図ります。	◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。 ◆老朽化が進む金森図書館を安心して利用してもらうために、施設や設備の修繕を行い、施設の安全管理に努めます。

2021年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	忠生図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	---------	------	---------

1.事業概要

市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。

基本情報	根拠法令等	図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則			施設の名称	町田市立忠生図書館		
	蔵書数	2019年度	2020年度	2021年度	建設年月日	2015年2月27日		
	蔵書数	95,372点	98,824点	102,542点				
	予約・リクエスト件数	59,453件	58,531件	68,299件		2019年度	2020年度	2021年度
	貸出者数	107,089人	88,852人	103,407人	有形固定資産減価償却率	60.9%	71.6%	82.2%

2. 2020年度末の総括と2021年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
 ◆近隣公立小中学校のほか、公立高等学校、私立中・高等学校、子どもセンター「ただON」等にも図書館利用を働きかけ、若年層の利用を促進する必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆児童生徒の利用を増やすため、近隣公立小中学校、公立高等学校、私立中・高等学校、子どもセンター「ただON」等の関連部署と連携して、図書館の魅力をアピールしていきます。	◆市内の文学・歴史について紹介する講演会事業・展示事業を実施して、児童生徒のみならず、あらゆる世代の図書館利用促進を行います。	◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。	
取組状況	○	◆図書館の魅力をアピールするため、子どもセンター「ただON」にて「出張工作おはなし会」を実施しました。工作本の紹介や工作・おはなしを通じて図書館に親しみを持ってもらい、図書館の利用方法を紹介しました。参加できなかったお子さん用に職員手作りの工作キットと図書館のパンフレットを配布しました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	562,000	568,000	568,000	568,000	568,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数
		実績	455,391	376,325	438,693		(2023年度)	
来館者数	人	目標	218,000	219,000	219,000	219,000	219,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	200,851	148,402	151,719		(2023年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆貸出点数、来館者数は目標達成には至りませんでした。2020年度と比較してどちらも増加しました。
 ◆図書館利用を促進するため、児童向けのイベントを6回、児童や一般向けに季節にあったテーマや周年特集として「日本各地のゆかりの本」を毎月更新し、年間を通じて楽しんでいただける特集コーナーを82回実施しました。また、関係部署と共催で「選挙へ行こう」「自殺対策強化月間」「世界糖尿病デー」をテーマに施策のPRと関連する書籍の特集を3回実施しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2019年度	2020年度 A	2021年度 B	差額 B-A	勘定科目	2019年度	2020年度 A	2021年度 B	差額 B-A
人件費	62,824	64,449	62,255	△ 2,194	地方税	0	0	0	0
物件費	49,730	32,891	31,864	△ 1,027	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	25,419	12,450	11,905	△ 545	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	0	0	0	0	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	8	8	7	△ 1	その他	177	62	72	10
減価償却費	11,065	9,682	9,682	0	行政収入 小計(a)	177	62	72	10
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 125,180	△ 111,325	△ 109,401	1,924
賞与・退職手当引当金繰入額	1,730	4,357	5,665	1,308	金融収支差額(d)	0	0	0	0
行政費用 小計(b)	125,357	111,387	109,473	△ 1,914	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 125,180	△ 111,325	△ 109,401	1,924
特別費用(g)	630	258	1,895	1,637	特別収入(f)	4,173	31	836	805
特別収支差額(f)-(g)=(h)	3,543	△ 227	△ 1,059	△ 832	当期収支差額(e)+(h)	△ 121,637	△ 111,552	△ 110,460	1,092

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 22,298千円 再任用職員 4,856千円 会計年度任用職員 35,075千円 など	ICタグカラーバーコードシステム使用料 10,822千円 忠生市民センター総合管理委託料 8,583千円 図書館情報システムサービス使用料 5,495千円 など
主な増減理由	職員構成の変化により2,194千円減少。	貸出手続き確認装置等管理業務の委託回数増加により182千円増加した一方、床面剥離洗浄・ワックス塗布業務委託料705千円減少やアルコール消毒液購入費などの減少により1,027千円減少。

勘定科目	特になし	特になし
決算額の主な内訳		
主な増減理由		

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2021	438,693	250	△ 46	貸出点数が増加し、人件費や物件費などが減少したことにより、単位あたりコストが46円減少しました。
		2020	376,325	296	21	
		2019	455,391	275		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2021	1,266	86,472	△ 1,511	人件費や物件費などが減少したことにより、単位あたりコストが1,511円減少しました。
		2020	1,266	87,983	△ 11,035	
		2019	1,266	99,018		

④貸借対照表

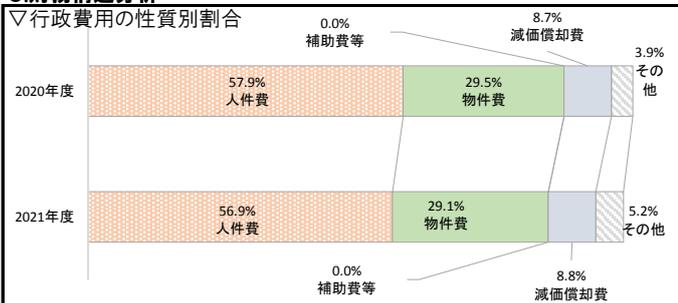
(単位:千円)

勘定科目		2020年度末 A	2021年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2020年度末 A	2021年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	1,921	3,993	2,072	
	不納欠損引当金	0	0	0					
	その他の流動資産	0	0	0	還付未済金	0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	0	0	0	地方債	0	0	0
		土地	0	0	0	賞与引当金	1,921	3,993	2,072
		建物(取得価額)	0	0	0	その他の流動負債	0	0	0
		建物減価償却累計額	0	0	0	固定負債	24,191	24,052	△ 139
		工作物(取得価額)	0	0	0	地方債	0	0	0
		工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	24,191	24,052	△ 139
	無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0	
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	負債の部合計	26,112	28,045	1,933
		土地	0	0	0	純資産	142,453	135,167	△ 7,286
		工作物(取得価額)	0	0	0				
	工作物減価償却累計額	0	0	0					
	無形固定資産	0	0	0					
	建設仮勘定	0	0	0					
	その他の固定資産	168,565	163,212	△ 5,353	純資産の部合計	142,453	135,167	△ 7,286	
	資産の部合計	168,565	163,212	△ 5,353	負債及び純資産の部合計	168,565	163,212	△ 5,353	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産		
決算額の主な内訳	図書資産 147,082千円 忠生図書館書架等備品 16,130千円	特になし	特になし
主な増減理由	図書資産は、購入・寄贈・除籍・特別収入により、4,329千円増加。書架等備品は減価償却により9,682千円減少。		

5.財務構造分析

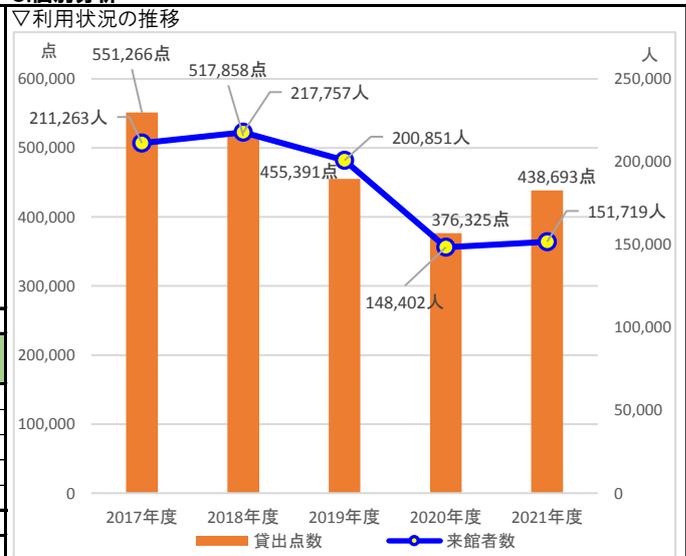


▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度		2021 合計	2020 合計
				(業務)	(補助)		
図書館管理事務	0.3	0.1				0.4	0.5
各館庶務事務	1.8	0.7				2.5	2.4
企画運営事務	0.4	0.1		0.2		0.7	0.7
資料貸出・閲覧業務	0.4	0.1		7.9	2.4	10.8	11.2
利用援助・普及事業	0.1			0.6		0.7	0.5
2021年度 特定事業 合計	3.0	1.0	0.0	8.7	2.4	15.1	15.3
2020年度 特定事業 合計	3.0	1.0	0.0	9.5	1.8	15.3	

6.個別分析



7.総括

①財務情報と非財務情報(取り組み・成果・人員等)の分析

◆外国語の絵本・児童書を136冊購入、所蔵替え25冊、寄贈1冊により「英語多読コーナー」の蔵書数は688冊となり2020年度と比較して162冊増加し、「えいごのまちだ」の支援と充実を図ることができました。
◆児童向けのイベントとして、参加型展示「おりがみで壁面装飾」「バンザイサンタ」など4回実施し643人参加、夏休みイベント「ひつじちゃんをさがせ！」と「クイズ王をめざせ！」を2回実施し458人の参加があり、2020年度と比較して656人増加し、合計1,101人の参加がありました。

②新型コロナウイルス感染症の影響、対策および財務への影響の分析

◆校内放送設備を活用した出張型「リモートおはなし会とブックトーク」を小学校2校20クラスで実施し605人の参加がありました。◆新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりましたが、町田市出身の詩人「八木重吉講演会」では、定員を超える多くの方から申込があり、地域に関連するイベントに高いニーズがあることがわかりました。◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、パーティションや手指消毒液を購入、設置したほか、予約照会機やセルフ貸出機等の定期的清掃・消毒などの対応を行いました。◆新型コロナウイルス感染症の防止対策を図りながら開館した結果、2020年度と比較して来館者数は3,317人増加し151,719人となり、貸出点数も62,368冊増加しました。

③2021年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
◆2015年5月の開館以後2018年度をピークに来館者数が減少傾向にあり図書館サービスのPRが必要です。
◆市民ニーズがありながら新型コロナウイルス感染症の影響により「おはなし会」や「講演会」など実施できなかった事業があり、コロナ禍に対応した実施方法の検討が必要です。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆新型コロナウイルス感染症の影響により休止していた「おはなし会」の実施方法を検討して、再開します。 ◆複合施設の利点を生かし、窓口や施設、乳幼児健診などで来館された方向けに図書館サービスのPRを行います。	◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。

2021年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	木曾山崎図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	-----------	------	---------

1.事業概要

市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。

基本情報	根拠法令等	図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則			施設の名称	町田市立木曾山崎図書館		
	蔵書数	2019年度	2020年度	2021年度	建設年月日	1976年3月25日		
	蔵書数	54,151点	52,929点	53,621点				
	予約・リクエスト件数	36,787件	36,634件	42,873件		2019年度	2020年度	2021年度
	貸出者数	62,875人	54,086人	65,813人	有形固定資産減価償却率	54.3%	57.1%	59.9%

2. 2020年度末の総括と2021年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
- ◆地域の方々から愛される何度も訪れたくなる図書館づくりを進める必要があります。
- ◆新しい生活様式にあわせた図書館サービスに引き続き取り組む必要があります。
- ◆建築後40年以上が経過していることから、利用者に安心して施設を利用していただけよう、適正な維持管理を行う必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆来館者数の目標達成に向けて、高齢者や子ども向けのイベントを効果的に実施します。	◆リモートおはなし会など、新たな図書館サービスに引き続き取り組みます。	◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。	◆必要な修繕等を行い、利用者に安心して施設を利用していただけよう、施設の維持管理を行います。
◆利用者に快適に利用していただけよう施設を安全・清潔に保ちます。			
◎	◆2020年度に引き続き、七国山小学校のボランティアコーディネーターと連携して、学校のパソコン室から各クラスに向けて発信するリモートおはなし会を開催しました。また、新たな取り組みとして、図書館内を案内する動画をChromebookを通じて配信し、リモートによる図書館見学を実施しました。◆利用者に安心して利用いただけように必要な修繕(排煙窓の修繕)を行いました。		

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	237,000	240,000	240,000	240,000	240,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数
		実績	202,115	169,457	206,787		(2023年度)	
来館者数	人	目標	196,000	197,000	197,000	197,000	197,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	199,870	141,259	165,898		(2023年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆貸出点数は目標値には至りませんでした。2019年度実績を超えました。◆来館者数は目標値や2019年度実績には至りませんでした。2020年度と比較すると増加しました。◆「めんどくさがりやのあなたへ」、「のぞいてみよう! 児童文学の世界」など毎月特集コーナーを設置し、図書館利用のPRを行い、利用促進を図りました(合計66回)。◆7月及び12月に七国山小学校に出張して全学年を対象に、リモートおはなし会を計8回行いました。◆Chromebookを利用したリモートによる図書館見学を実施し、181人の児童の参加がありました。◆お持ち帰りのワークキットを96人に配布しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2019年度	2020年度 A	2021年度 B	差額 B-A	勘定科目	2019年度	2020年度 A	2021年度 B	差額 B-A
人件費	44,735	41,504	40,898	△ 606	地方税	0	0	0	0
物件費	22,021	13,144	12,768	△ 376	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	8,905	2,173	2,197	24	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	1,640	247	384	137	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	8	6	5	△ 1	その他	93	30	25	△ 5
減価償却費	3,177	3,177	3,177	0	行政収入 小計(a)	93	30	25	△ 5
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 74,587	△ 59,885	△ 61,386	△ 1,501
賞与・退職手当引当金繰入額	3,099	1,837	4,179	2,342	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	74,680	59,915	61,411	1,496	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 74,587	△ 59,885	△ 61,386	△ 1,501
特別費用 (g)	7,079	4,276	2,869	△ 1,407	特別収入 (f)	1	4,544	0	△ 4,544
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 7,078	268	△ 2,869	△ 3,137	当期収支差額 (e)+(h)	△ 81,665	△ 59,617	△ 64,255	△ 4,638

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 16,129千円 再任用職員 3,682千円 会計年度任用職員 21,069千円 など	ICタグカラーバーコードシステム使用料 5,073千円 図書館情報システムサービス使用料 2,576千円 清掃業務委託料 1,144千円 など
主な増減理由	職員構成の変化により、606千円減少。	アルコール消毒液購入費などの減少により、376千円減少。
勘定科目	維持補修費	
決算額の主な内訳	事務室ドア枠修繕 103千円 排煙窓修繕 281千円	
主な増減理由	排煙窓修繕などを行ったことにより、137千円増加。	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2021	206,787	297	△ 57	貸出点数が増加したことにより、単位あたりコストが57円減少しました。
		2020	169,457	354	△ 15	
		2019	202,115	369		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2021	321	191,312	4,661	賞与・退職手当引当金繰入額が増加したことにより、単位あたりコストが4,661円増加しました。
		2020	321	186,651	△ 45,997	
		2019	321	232,648		

④貸借対照表

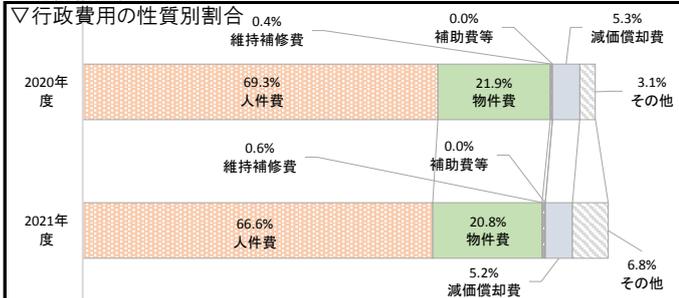
(単位:千円)

勘定科目		2020年度末 A	2021年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2020年度末 A	2021年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	1,837	2,774	937	
	不納欠損引当金	0	0	0					
	その他の流動資産	0	0	0	還付未済金	0	0	0	
固定資産	有形固定資産	48,625	45,449	△ 3,176	地方債	0	0	0	
	土地	0	0	0	賞与引当金	1,837	2,774	937	
	建物(取得価額)	111,462	111,462	0	その他の流動負債	0	0	0	
	建物減価償却累計額	△ 62,837	△ 66,013	△ 3,176	固定負債	17,183	17,287	104	
	工作物(取得価額)	0	0	0	地方債	0	0	0	
	工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	17,183	17,287	104	
	無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0	
					負債の部合計	19,020	20,061	1,041	
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	純資産	100,588	97,106	△ 3,482
		土地	0	0	0				
	工作物(取得価額)	0	0	0					
	工作物減価償却累計額	0	0	0					
	無形固定資産	0	0	0					
	建設仮勘定	0	0	0					
	その他の固定資産	70,983	71,718	735	純資産の部合計	100,588	97,106	△ 3,482	
	資産の部合計	119,608	117,167	△ 2,441	負債及び純資産の部合計	119,608	117,167	△ 2,441	

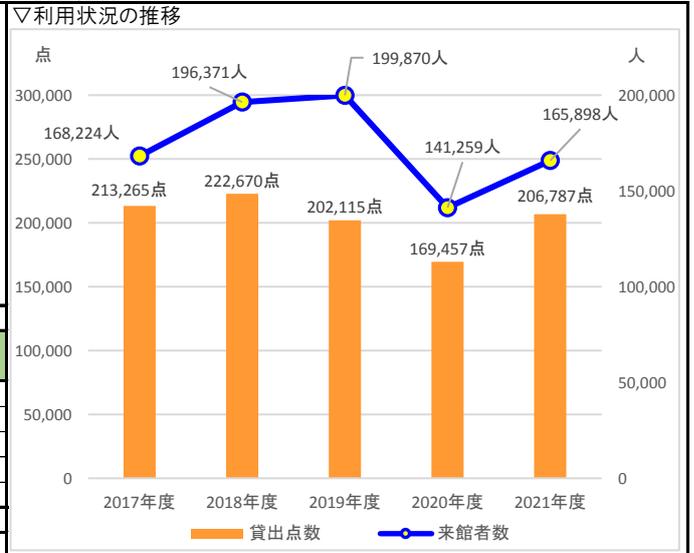
⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	その他の固定資産	
決算額の主な内訳	木曾山崎図書館 111,462千円	図書資産 71,718千円	特になし
主な増減理由	減価償却により、3,176千円減少。	購入1,572千円、寄贈986千円、除籍△1,805千円、特別費用△18千円により、735千円増加。	

5.財務構造分析



6.個別分析



▽事業に関わる人員

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度		2021 合計	2020 合計
				(業務)	(補助)		
図書館管理事務	0.1					0.1	0.1
各館庶務事務	0.6			0.1		0.7	0.6
企画運営事務	1.0			0.1		1.1	1.1
資料貸出・閲覧業務	0.3		1.0	4.8	0.5	6.6	7.4
利用援助・普及事業				0.7		0.7	0.6
2021年度 特定事業 合計	2.0	0.0	1.0	5.7	0.5	9.2	9.8
2020年度 特定事業 合計	2.0	0.0	1.0	5.9	0.9	9.8	

7.総括

①財務情報と非財務情報(取り組み・成果・人員等)の分析

- ◆玉川学園コミュニティセンターでの予約資料受渡しサービスを支援する業務が始まりましたが、業務の見直しを行い2020年度と同じ人員体制で対応することができました。
- ◆七国山小学校でのリモートおはなし会の参加人数は615人でした。2020年度から引き続き全校児童を対象として実施しています。
- ◆排煙窓の修繕を行い、施設の維持管理及び利用環境の改善を行いました。

②新型コロナウイルス感染症の影響、対策および財務への影響の分析

- ◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う臨時休館日数の減少等により、2020年度と比較して貸出点数は37,330点増加し、来館者数も24,639人増加しました。◆感染症対策を行いながらおはなし会を再開し、延べ18回、82人の参加がありました。
- ◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、パーテーションや手指用消毒液を購入・設置したほか、セルフ貸出機等の定期的な清掃・消毒などの対応を行いました。

③2021年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
- ◆これまで図書館を利用していない市民にも利用していただけるように、魅力的な書架づくりに取り組む必要があります。
- ◆建築後40年以上が経過していることから、利用者に安心して施設を利用していただけるよう、適正な維持管理を行う必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
<ul style="list-style-type: none"> ◆引き続き、近隣の小学校と連携して、リモートおはなし会などに取り組みます。 ◆他館からの資料を取り寄せて魅力的な書架づくりに取り組みます。 ◆利用者に快適に利用していただけるように施設を安全・清潔に保ちます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。 ◆必要な修繕等を行い、利用者に安心して施設を利用していただけるように施設の維持管理を行います。

2021年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	堺図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	--------	------	---------

1.事業概要

事業目的 市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。

基本情報	根拠法令等	図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則					
		2019年度	2020年度	2021年度	施設の名称	町田市立堺図書館	
	蔵書数	68,053点	68,423点	68,417点	建設年月日	1983年9月25日	
	予約・リクエスト件数	26,890件	29,850件	36,287件			
	貸出者数	35,937人	31,907人	40,279人	有形固定資産減価償却率	-	

2.2020年度末の総括と2021年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。◆移動図書館の貸出は、1巡回場所あたりの貸出冊数は若干の増加傾向にあります。新型コロナウイルス感染症が拡大している社会情勢のなか、外出自粛の影響があるのか等、今後の貸出冊数の推移を分析していく必要があります。◆近接する八王子、相模原を含む堺地域にある活動拠点の図書館として、住民に密着した貢献ができる取組が必要です。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆移動図書館巡回場所や予約受け渡し場所等、図書館遠隔地サービスの見直し検討を行います。 ◆図書資料の閲覧および貸出を促進するため、テーマに沿った特集本コーナーを設置します。	◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。

取組状況 ○ ◆図書館協議会において、移動図書館の見直し検討を行いました。移動図書館車を小型化買い替えをしてイベント等で訪れることができる場所を増やしていく方向で計画しています。
◆テーマに沿った特集本コーナーを児童、文学、一般書で合計40回実施しました。

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	255,000	257,000	257,000	257,000	257,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(移動図書館1台の貸出点数を含む)
		実績	164,318	144,994	184,611		(2023年度)	
来館者数	人	目標	73,000	74,000	74,000	74,000	74,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	67,791	49,028	62,697		(2023年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆貸出点数は増加に転じ2019年度以降最も多く、来館者数も2020年度と比較して増加しました。◆移動図書館1台が22か所のサービスステーションを2週間ごとに巡回して、図書館が近隣にない地域の利用者へのサービスを実施し、町内会・自治会での呼びかけもあり貸出冊数は増加しました。◆「1964相模原の記憶」と題し、オリンピック聖火ランナーの写真展、シルバー川柳、大人のための福袋を実施しました。また、地域団体による写真・絵画等の展示会を行いました。◆新型コロナウイルス感染症対策をしつつ、おはなし会、図書館見学、イベント等を行いました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2019年度	2020年度	2021年度	差額	勘定科目	2019年度	2020年度	2021年度	差額
		A	B	B-A			A	B	B-A
人件費	56,014	57,299	56,011	△ 1,288	地方税	0	0	0	0
物件費	22,566	13,231	12,988	△ 243	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	10,181	3,440	3,257	△ 183	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	15	453	43	△ 410	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	10	10	9	△ 1	その他	89	34	27	△ 7
減価償却費	0	0	0	0	行政収入 小計(a)	89	34	27	△ 7
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 83,261	△ 74,940	△ 78,278	△ 3,338
賞与・退職手当引当金繰入額	4,745	3,981	9,254	5,273	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	83,350	74,974	78,305	3,331	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 83,261	△ 74,940	△ 78,278	△ 3,338
特別費用 (g)	5,406	1,979	3,644	1,665	特別収入 (f)	22	0	0	0
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 5,384	△ 1,979	△ 3,644	△ 1,665	当期収支差額 (e)+(h)	△ 88,645	△ 76,919	△ 81,922	△ 5,003

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 30,579千円 会計年度業務職員 23,482千円 会計年度補助職員 1,916千円 など	ICタグカラーバーコードシステム使用料 5,073千円 堺市民センター物件費 3,553千円 図書館情報システムサービス使用料 2,576千円 など
主な増減理由	職員構成の変化により1,288千円減少。	アルコール消毒液購入費などの減少により243千円減少。

勘定科目	特になし	特になし
決算額の主な内訳	特になし	特になし
主な増減理由		

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2021	184,611	424	△ 93	貸出点数が増加したことにより、単位あたりコストが△93円減少しました。
		2020	144,994	517	10	
		2019	164,318	507		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2021	430	182,105	7,747	賞与・退職手当引当金繰入額が増加したことにより、単位あたりコストが7,747円増加しました。
		2020	430	174,358	△ 19,479	
		2019	430	193,837		

④貸借対照表

(単位:千円)

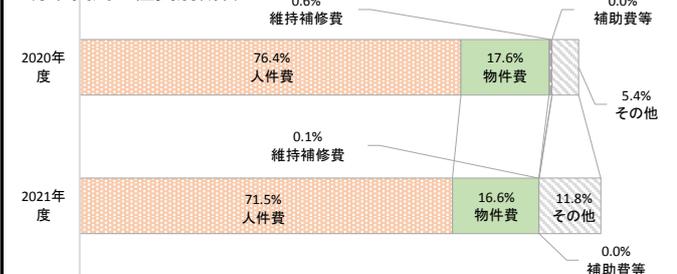
勘定科目		2020年度末 A	2021年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2020年度末 A	2021年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	2,908	4,427	1,519	
	不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0	
	その他の流動資産	0	0	0	地方債	0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	0	0	0	賞与引当金	2,908	4,427	1,519
		土地	0	0	0	その他の流動負債	0	0	0
		建物(取得価額)	0	0	0	固定負債	29,926	32,319	2,393
		建物減価償却累計額	0	0	0	地方債	0	0	0
		工作物(取得価額)	0	0	0	退職手当引当金	29,926	32,319	2,393
		工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計	32,834	36,746	3,912	
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	純資産	93,179	89,408	△ 3,771
		土地	0	0	0				
		工作物(取得価額)	0	0	0				
工作物減価償却累計額		0	0	0					
無形固定資産		0	0	0					
	建設仮勘定	0	0	0					
	その他の固定資産	126,013	126,154	141	純資産の部合計	93,179	89,408	△ 3,771	
	資産の部合計	126,013	126,154	141	負債及び純資産の部合計	126,013	126,154	141	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産		
決算額の主な内訳	図書資産 126,154千円	特になし	特になし
主な増減理由	購入1,536千円、寄贈717千円、除籍1,989千円、特別費用△123千円により、図書資産額が141千円増加。		

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合

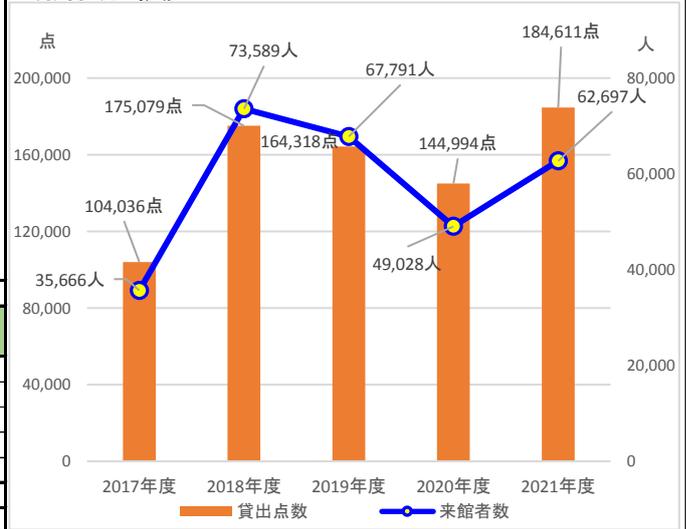


▽事業に関わる人員

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度		2021 合計	2020 合計
				(業務)	(補助)		
図書館管理事務	0.3			0.1		0.4	0.3
各館庶務事務	0.8			0.1		0.9	1.0
企画運営事務	0.7			0.2		0.9	0.8
資料貸出・閲覧業務	2.1			5.8	1.0	8.9	9.9
利用援助・普及事業	0.1			0.5		0.6	0.6
2021年度 特定事業 合計	4.0	0.0	0.0	6.7	1.0	11.7	12.6
2020年度 特定事業 合計	4.0	0.0	0.0	7.3	1.3	12.6	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①財務情報と非財務情報(取り組み・成果・人員等)の分析

◆特集コーナー等により、貸出点数は、2020年度と比較して39,617点増加したため184,611点となり、2017年度以降最も多くなっています。◆新型コロナウイルス感染症の影響などにより、2020年度まで来館者は減少していましたが、2021年度は2020年度より13,669人増加し、回復の兆しが見えています。◆移動図書館で福袋、高齢者福祉課と連携したD-books特集などを行ったこともあり、2021年度の移動図書館の貸出冊数は10,842冊増加して38,213冊となりました。◆地域で活動している6つの団体と個人2人と連携し、写真・絵画などの展示会を8回行いました。

②新型コロナウイルス感染症の影響、対策および財務への影響の分析

◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う臨時休館が少なくなり利用者は増えた一方、堺市民センターまつりの中止、おはなし会も9回121人と中止が多かったこと、閲覧席の削減などにより、来館者数は新型コロナウイルス感染症以前の状況まで回復していません。◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、引き続きパーテーションや手指用消毒液を購入・設置したほか、セルフ貸出機等の定期的な清掃・消毒などの対応を行いました。

③2021年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。◆移動図書館の出張運行の状況や各巡回場所の利用状況などを分析して、移動図書館を効率的・効果的に運用する必要があります。◆隣接する八王子、相模原を含む堺地域にある活動拠点の図書館として、住民に密着した貢献ができる取組が必要です。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆移動図書館巡回場所、買い替え時の小型化や予約受け渡し場所等、図書館遠隔地サービスの見直し検討を行います。 ◆図書資料の閲覧および貸出を促進するため、展示など地域に密着した取組を進めます。	◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。

2021年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	鶴川駅前図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	-----------	------	---------

1.事業概要

市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。

基本情報	根拠法令等	図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則					
		2019年度	2020年度	2021年度	施設の名称	町田市立鶴川駅前図書館	
	蔵書数	106,282点	108,955点	111,138点	建設年月日	2012年8月31日	
	予約・リクエスト件数	101,980件	99,026件	110,548件			
	貸出者数	153,175人	125,644人	142,583人	有形固定資産減価償却率	-	

2. 2020年度末の総括と2021年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
- ◆指定管理者制度導入によって運営者が変わっても、サービス水準を低下させないよう引継ぎ等を円滑に行う必要があります。
- ◆鶴川地域の中規模図書館であり、駅前図書館の立地を活かし、地域住民のニーズと通勤・通学者の動向を探りながら、より魅力的な蔵書構成にする必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取組み」および取組み状況

短期的な取組み(1~2年)		中長期的な取組み(3~5年)	
◆2021年度中に指定管理者を選定し、2022年4月から指定管理者による図書館運営がスムーズに移行できるように進めます。		◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。	◆指定管理者により提供される図書館サービス水準のモニタリングや、管理運営状況評価を実施します。

取組状況	◎	◆2021年度中に指定管理者を選定し、2022年4月から指定管理者による図書館運営に移行できるように引継ぎを行いました。 ◆利用者の利便性向上に繋がるよう、指定管理者の提案する開館日及び開館時間の拡大やWi-Fi環境の整備等が実現できるように、事前に施設及び関係部局との調整を行い、準備を進めました。
------	---	---

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	552,000	558,000	558,000	558,000	558,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数
		実績	463,064	381,263	436,465		(2023年度)	
来館者数	人	目標	335,000	336,000	336,000	336,000	336,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	307,459	218,610	265,508		(2023年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆貸出点数・来館者数は目標値や2019年度実績には至りませんでした。2020年度と比較するとどちらも増加しました。◆指定管理者選考時に4者から応募があり、選考委員会で「久美堂・ヴィアックス共同事業体」に決定しました。その後、2022年2月より実践的な引継ぎ業務を行い、準備が整いました。
- ◆地区街づくり課と連携して、「景観」特集を行いました。相模原市の景観しおりや鶴川駅周辺街づくり事業の冊子等も配布したところ、市民が持ち帰り、早々に無くなったので配布物を追加しました。特集を毎月設置し他部署コラボ特集や図書館独自の特集を合わせて65回行いました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2019年度	2020年度	2021年度	差額	勘定科目	2019年度	2020年度	2021年度	差額
		A	B	B-A			A	B	B-A
人件費	70,854	78,389	77,338	△ 1,051	地方税	0	0	0	0
物件費	61,340	45,070	45,056	△ 14	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	36,223	23,499	24,212	713	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	210	246	500	254	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	10	10	9	△ 1	その他	314	179	184	5
減価償却費	0	0	0	0	行政収入 小計(a)	314	179	184	5
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 136,443	△ 130,786	△ 130,449	337
賞与・退職手当引当金繰入額	4,343	7,250	7,730	480	金融収支差額(d)	0	0	0	0
行政費用 小計(b)	136,757	130,965	130,633	△ 332	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 136,443	△ 130,786	△ 130,449	337
特別費用(g)	772	1,209	3,221	2,012	特別収入(f)	118	5	334	329
特別収支差額(f)-(g)=(h)	△ 654	△ 1,204	△ 2,887	△ 1,683	当期収支差額(e)+(h)	△ 137,097	△ 131,990	△ 133,336	△ 1,346

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 30,183千円 再任用職員 5,219千円 会計年度任用職員 41,902千円 など	総合管理業務委託料 22,528千円 ICタグカラーバーコードシステム使用料 10,822千円 図書館情報システムサービス使用料 5,495千円 など
主な増減理由	職員構成の変化により1,051千円減少。	総合管理業務委託料などが増加した一方、アルコール消毒液購入費などの減少により14千円減少。
勘定科目	維持補修費	
決算額の主な内訳	空調設備改修修繕 436千円 流し台漏水修繕 48千円 女性トイレ修繕 16千円	特になし
主な増減理由	空調設備の改修などにより254千円増加。	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	人	2021	436,465	299	△ 45	貸出点数が増加し、人件費などが減少したことにより、単位あたりコストが45円減少しました。
		2020	381,263	344	49	
		2019	463,064	295		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2021	1,344	97,197	△ 247	貸出点数が増加し、人件費などが減少したことにより、単位あたりコストが247円減少しました。
		2020	1,344	97,444	△ 4,310	
		2019	1,344	101,754		

④貸借対照表

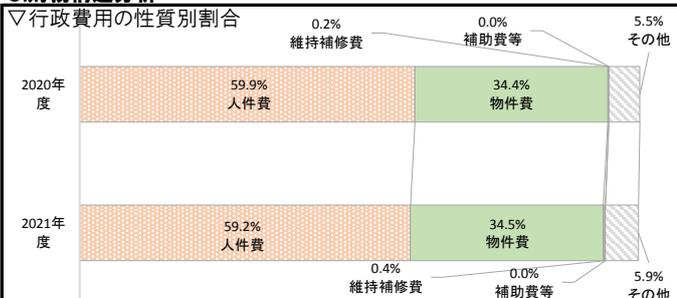
(単位:千円)

勘定科目		2020年度末 A	2021年度末 B	差額 B-A	勘定科目		2020年度末 A	2021年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債		3,407	5,146	1,739	
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	0	
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	0	0	0		賞与引当金	3,407	5,146	1,739
		土地	0	0	0		その他の流動負債	0	0	0
		建物(取得価額)	0	0	0	固定負債		32,170	32,319	149
		建物減価償却累計額	0	0	0		地方債	0	0	0
		工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金	32,170	32,319	149
	工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0	0	
	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計		35,577	37,465	1,888	
インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	純資産		113,229	114,656	1,427	
	土地	0	0	0						
	工作物(取得価額)	0	0	0						
	工作物減価償却累計額	0	0	0						
	無形固定資産	0	0	0						
	建設仮勘定	0	0	0						
	その他の固定資産	148,806	152,121	3,315	純資産の部合計		113,229	114,656	1,427	
	資産の部合計	148,806	152,121	3,315	負債及び純資産の部合計		148,806	152,121	3,315	

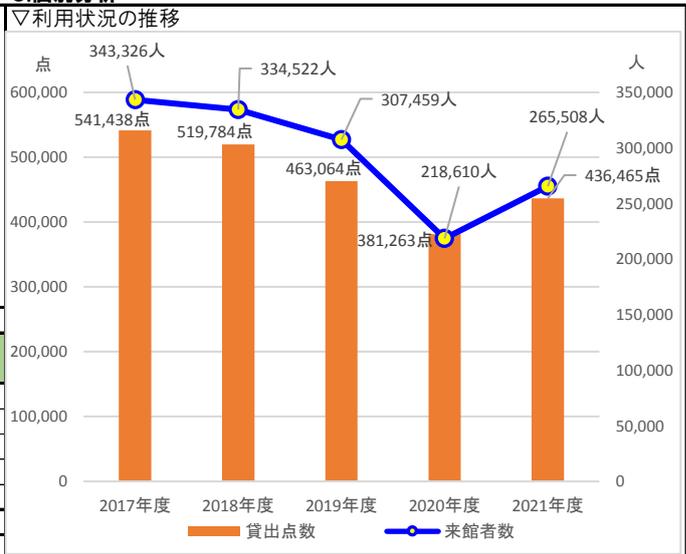
⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産		
決算額の主な内訳	図書資産 152,121千円	特になし	特になし
主な増減理由	購入3,246千円、寄贈1,029千円、除籍△1,293千円、特別収入333千円により、図書資産額が3,315千円増加。		

5.財務構造分析



6.個別分析



▽事業に関わる人員

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度		2021 合計	2020 合計
				(業務)	(補助)		
図書館管理事務	0.3			0.3		0.6	0.7
各館庶務事務	0.8	0.1		0.2		1.1	0.8
企画運営事務	1.2	0.7		0.3		2.2	1.4
資料貸出・閲覧業務	1.6	0.2		9.1	2.6	13.5	14.6
利用援助・普及事業	0.1			0.7		0.8	1.0
2021年度 特定事業 合計	4.0	1.0	0.0	10.6	2.6	18.2	18.5
2020年度 特定事業 合計	4.0	1.0	0.0	10.7	2.8	18.5	

7.総括

①財務情報と非財務情報(取り組み・成果・人員等)の分析

- ◆指定管理者制度導入に向けて、説明会、募集、選考、引継ぎを行いました。
- ◆夏休みに子ども向けクイズラリー「としょかんなどぞたんけんたい」と「ほんをよんでたびによう」を実施し、1,086人の参加がありました。2020年度と比較して参加者が129人増加しました。夏休みイベントが好評によりハロウィンにも「TRICK OR READ!」を企画し255人の参加がありました。クリスマスにも「サンタツリーをつくろう!」「ブックアドベントカレンダー」を企画し405人の参加がありました。

②新型コロナウイルス感染症の影響、対策および財務への影響の分析

- ◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う臨時休館日数の減少等により、2020年度と比較して貸出点数は55,202点増加し、来館者数も46,898人増加しました。
- ◆図書館内のおはなし会は2022年10月から再開しましたが、予約制で人数を制限して行いました。11回開催し、参加人数は106人でした。鶴川地区協議会が主催する、3水スマイルラウンジで行う「わくわくひろば」に31回参加し、連携して事業を行うことができました。

③2021年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
- ◆指定管理者が管理運営しても、サービス水準を維持・向上させるよう、モニタリングに取組む必要があります。
- ◆指定管理者が行う新しいサービス(開館日・開館時間の拡大、本の除菌機やWi-Fi環境の整備等)周知のためのPRが課題です。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆指定管理者が適正な管理運営ができていないか確認するモニタリングを実施し、民間事業者ならではの図書館サービスを積極的に導入します。	◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。 ◆指定管理者により提供される図書館サービス水準のモニタリングや、管理運営状況評価を実施します。

2021年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	図書館	歳出目名	文学館費
			事業類型	D:事業型(施設運営・受益者負担)	

1.組織概要

組織の使命	町田ゆかりの文学者の著作、原稿等の資料及び市民の文学的著作等を収集・保存し、展示や講演会などを通して市民に発信し、文学に関する調査研究や知識の普及活動を行うとともに、それを支援することにより市民が文学にふれあえる機会をつくり出す。	取 他 り 自 治 体 等 の	◆町田市民文学館は、多摩26市で唯一の総合文学館として、文学・ことば・文字をテーマにした特色ある事業を実施しています。◆鎌倉文学館では、全国の小中学生から詩の作品を募集した「鎌倉文学館こども文学賞」を実施し、2021年度は774件の応募がありました。◆北九州市立文学館では、小中学生対象の「子どもノンフィクション文学賞」を実施しています。
所管事務	◆文学資料の収集、保存及び展示に関する事 ◆文学館資料及び図書館資料の館内閲覧及び館外貸出しに関する事 ◆講演会等の開催に関する事 ◆文学に関する広報活動に関する事 ◆文学に関する出版物等の作成及び販売に関する事 ◆文学資料の寄贈及び寄託に関する事 ◆文学館施設・設備の利用及び維持管理に関する事		

基本情報	根拠法令等 町田市民文学館条例、町田市民文学館条例施行規則							
		2019年度	2020年度	2021年度	施設の名称	町田市民文学館こぼらんど		
	利用料金収入 (単位:千円)	2,639	1,194	4,164	建設年月日	2006年6月1日		
	受益者負担比率	1.9%	0.9%	3.0%		2019年度	2020年度	2021年度
	来館者数 (単位:人)	60,602	30,364	49,945	有形固定資産減価償却率	26.1%	28.1%	30.1%

2.2020年度末の総括と2021年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆新型コロナウイルス感染症の影響により減少した来館者数を回復させるために、魅力的な事業を展開する必要があります。◆文学館をより多くの人に知ってもらい、特に若い世代の利用につながるよう、SNS等による情報発信を積極的に行う必要があります。◆中高生から20歳代の若い世代を対象とした事業の充実を図る必要があります。◆人と人とのつながりが重要視されている中、様々な地域や団体と連携しながら事業を進める必要があります。◆開館後15年が経過し、空調設備の改修等大規模な修繕をする必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

	短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
取組状況	<p>◆春の「ZARD/坂井泉水 心に響くことば」展での詩やことばに焦点を当てた展示をはじめ、多くの市民に関心を持ってもらえるよう文学館ならではの企画展を実施します。◆青少年に文学と触れ合うきっかけを提供する、小・中・高校生を対象にした「こぼらんどショートコンクール」を実施します。</p> <p>◆ZARD展をはじめ企画展を4回実施し、目標を上回る22,248人の観覧者を獲得することが出来ました。</p> <p>◆知名度の高いZARD展やTwitterで短歌募集を行った57577展の開催により、Twitterのフォロワー数が2,033件となりました。</p> <p>◆「こぼらんどショートコンクール」を実施し、目標の3倍を超える939件の応募がありました。</p>	<p>◆地域協力者や団体、事業所等と連携して事業を実施します。</p> <p>◆YouTube、Twitter、Instagram等のSNSを活用して、効果的なPR活動を行います。</p> <p>◆関係部署と連携し、中規模修繕工事の実施を検討します。</p>

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
展覧会観覧者数	人	目標	24,000	16,000	19,000	23,000	23,000	原則年4回開催している展覧会の観覧者数
		実績	27,690	8,530	22,248		(2022)	
ショートコンクール応募件数	件	目標	-	-	300	1,000	1,100	2021年度から実施している「こぼらんどショートコンクール」の応募件数
		実績	-	-	939		(2023)	

②成果指標およびその他の成果の説明

◆展覧会では、展示内容等のYouTube公開(春のZARD展)、関連イベントの期間限定YouTube配信(秋の浅生ハルミン展)、Twitterでの短歌募集(冬の57577展)など、SNSを積極的に活用してPRを行ったことにより、観覧者数が目標を上回る22,248人となりました。◆「ひなた村創作童話コンクール」事業をリニューアルして、文学館事業として初めてショートコンクールを実施し、939件の応募がありました。◆町田駅前商業施設において15周年を記念するパネル展示を実施しました。◆10月から新たにInstagramの運用を開始しました。◆市内小中学校の児童・生徒を対象に出張授業を8回実施しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2019年度	2020年度	2021年度	差額	勘定科目	2019年度	2020年度	2021年度	差額
		A	B	B-A			A	B	B-A
人件費	76,528	75,290	75,558	268	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	2,435	1,089	1,064	△ 25	保険料	0	0	0	0
物件費	40,978	29,638	34,761	5,123	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	20,243	14,376	17,718	3,342	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	219	1,506	1,377	△ 129	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	2,639	1,194	4,164	2,970
補助費等	2,032	2,149	2,982	833	その他	684	187	1,580	1,393
減価償却費	13,423	13,423	13,423	0	行政収入 小計(a)	3,323	1,381	5,744	4,363
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 138,481	△ 129,413	△ 132,821	△ 3,408
賞与・退職手当引当金繰入額	8,624	8,788	10,464	1,676	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	141,804	130,794	138,565	7,771	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 138,481	△ 129,413	△ 132,821	△ 3,408
特別費用 (g)	0	0	1,966	1,966	特別収入 (f)	0	0	0	0
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	0	△ 1,966	△ 1,966	当期収支差額 (e)+(h)	△ 138,481	△ 129,413	△ 134,787	△ 5,374

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	使用料及手数料
決算額の主な内訳	光熱水費 7,990千円 作成委託料 5,557千円 施設等管理委託料 3,816千円 など	展覧会観覧料 2,523千円 文学館施設使用料 1,570千円 附属設備使用料 71千円
主な増減理由	事業の再開に伴う委託料、使用料及び賃借料、光熱水費の増加等により5,123千円増加。	有料企画展の開催と会議室利用件数の増加により2,970千円増加。
勘定科目	補助費等	その他(行政収入)
決算額の主な内訳	報償費(事業協力謝礼) 1,655千円 報償費(講師謝礼) 1,110千円 保険料(動産保険料) 83千円 など	受託販売収入 855千円 芸術文化振興基金助成金 500千円 光熱水費使用料 89千円 など
主な増減理由	事業の再開に伴う報償費の増加等により833千円増加。	ZARD展開催に伴う受託販売収入及び芸術文化振興基金助成金収入の増加等により1,393千円増加。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
町田市民文学館来館者数1人あたりコスト	人	2021	49,945	2,774	△ 1,534	新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う休館日数が2020年度と比較して減少したことにより来館者数が増加したため、来館者1人あたりのコストは1,534円(△36%)減少し、2,774円となりました。
		2020	30,364	4,308	1,968	
		2019	60,602	2,340		
開館日数1日あたりコスト	日	2021	268	517,034	△ 23,437	新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う休館日数が2020年度と比較して減少したことにより開館日数1日あたりのコストは23,437円(△4%)減少し、517,034円となりました。
		2020	242	540,471	35,830	
		2019	281	504,641		

④貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2020年度末 A	2021年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2020年度末 A	2021年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	4,335	6,157	1,822
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	0	0
固定資産	有形固定資産	704,138	690,715	△ 13,423		賞与引当金	4,335	6,157
	土地	220,902	220,902	0		その他の流動負債	0	0
	建物(取得価額)	671,161	671,161	0		固定負債	51,517	51,914
	建物減価償却累計額	△ 187,925	△ 201,348	△ 13,423		地方債	0	0
	工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金	51,517	51,914
	工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0
	無形固定資産	0	0	0		負債の部合計	55,852	58,071
	インフラ資産	0	0	0		純資産	648,286	632,644
	建設仮勘定	0	0	0				
	その他の固定資産	0	0	0		純資産の部合計	648,286	632,644
資産の部合計		704,138	690,715	△ 13,423	負債及び純資産の部合計	704,138	690,715	△ 13,423

⑤貸借対照表の特徴的事項

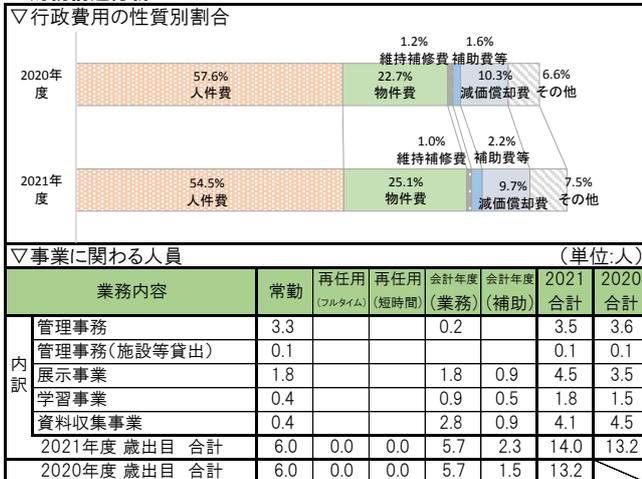
勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	
決算額の主な内訳	町田市民文学館ことばらんど 220,902千円	町田市民文学館ことばらんど 671,161千円	特になし
主な増減理由	増減なし	減価償却により、13,423千円減少。	

⑥キャッシュ・フロー収支差額集計表

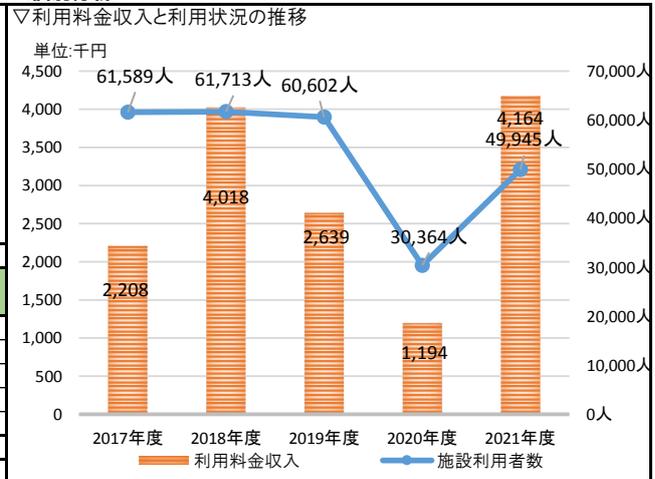
(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	5,743	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	124,889	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	0
行政サービス活動収支差額(a)	△ 119,146	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	0
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 119,146
				一般財源充当調整額	119,146

5.財務構造分析



6.個別分析



7.総括

①財務情報と非財務情報(取り組み・成果・人員等)の分析

◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止策を講じながら事業を再開し、4回の企画展や普及事業を実施したこと等により、行政費用が2020年度の130,794千円から2021年度の138,565千円へと7,771千円増加しましたが、TwitterなどのSNSを活用し、積極的に広報や事業展開を図ったことにより、展覧会観覧者数が22,248人、来館者数が49,945人と回復しました。◆全国的に著名なアーティストをテーマにした有料展覧会を開催したこと等により、2020年度と比較して使用料及び手数料が2,970千円、受託販売収入が837千円増加しました。

②新型コロナウイルス感染症の影響、対策および財務への影響の分析

◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う休館日が減少したことにより、2020年度と比較して来館者数が19,581人(64.5%)増加し、行政収入が4,363千円増加しました。一方で、光熱水費は856千円増加しました。◆施設貸出の中止等により、施設貸出・管理に伴う委託料が1,220千円減少しました。◆開館日数が増加したことにより、施設利用率が2020年度と比較して7.4ポイント増加し、45.5%となりました。◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、当館として初めて日時指定制のチケット予約販売を導入しました。

③2021年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆デジタル化やアウトリーチ等、ポストコロナ時代に対応した手法を検討しながら、事業を行う必要があります。◆ポストコロナ時代に求められている、地域や人とのつながりを生み出す事業を実施する必要があります。◆「ことばらんどショートショートコンクール」では、小学生から高校生まで幅広く応募してもらえるように効果的なPRを行う必要があります。◆若い世代に文学館を知ってもらえるよう、TwitterやInstagram等によるSNSでの情報発信を積極的に行う必要があります。◆開館後16年が経過し、空調設備の改修等大規模な修繕をする必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆秋の「浅野いにお」展での町田を舞台にした作品の展示をはじめ、多くの市民に関心を持ってもらえる展覧会を実施します。◆玉川大学学生と連携して、中学生向け冊子「町田の文学ガイド」の作成に着手します。◆より多くの応募が得られるように「ことばらんどショートショートコンクール」をPRします。	◆地域協力者や団体、事業所等と連携して事業を実施します。◆YouTube、Twitter、Instagram等のSNSを活用して、効果的なPR活動を行います。◆関係部署と連携し、中規模修繕工事の実施を検討します。

